

# 第3章 長岡京市の文化財の概要と特徴

## 1. 文化財の調査

### (1) 既存の文化財調査

本市域における文化財調査の先駆けは、遺跡や考古資料に関するもので、大正期に遡ります。それは、竹林の開墾などによって発見された古墳や古墓を対象としたものでしたが、昭和30年代になると、開発にかかる発掘調査の必要性和重要遺構の保存が叫ばれるようになり、隣接する向日市では長岡宮が発見されました。昭和40年代になると、本市域でも発掘調査が実施され、長岡第三小学校・長岡第二中学校の建設にともなって、乙訓寺の遺構や今里遺跡が明らかになりました。昭和50年(1975)以降、長岡京市教育委員会や長岡京市埋蔵文化財センターが中心となって発掘調査を担うようになり、その成果は『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』や『長岡京市史』などに取りまとめています。

その他、建造物や石造物、絵画、彫刻、工芸品、古文書などの有形文化財、祭り・行事、食文化、名勝地、動物・植物・地質鉱物、伝承などについては、乙訓寺・光明寺の建造物、寂照院の仏像・古文書などが総合調査として先行しましたが、昭和60年(1985)度から平成9年(1997)度まで、12ヶ年に及ぶ市史編さん事業のなかで悉皆的な調査が実施され、本文編2巻、資料編3巻、建築・美術編、民俗編からなる『長岡京市史』全7巻がまとめられました。『長岡京市史』発刊以降も、タケノコ栽培用具などの民俗資料調査、下海印寺地区や長岡天満宮にかかる総合調査を実施しており、これらを中心にまとめると、表3-1のとおりとなります。

表3-1 長岡京市等による調査(1/2)

文化財類型	小区分	調査対象	時期	調査主体	調査成果刊行物
有形文化財	建造物	乙訓寺建造物	昭和63年5月	長岡京市教育委員会	乙訓寺建造物調査報告書
		光明寺建造物	平成3年3月	長岡京市教育委員会	光明寺建造物調査報告書
		神社、寺院、民家等建造物	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
	石造物	石造物	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
	絵画	仏教絵画、絵巻、近世・近代絵画	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
	彫刻	彫刻	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
	工芸品	金工品	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
	古文書	今里地区古文書	平成2年3月	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第23・26冊
		古代～近世史料、村別文書	平成4～5年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 資料編2(古代、中世、家分け史料)・3(近世)
	考古資料	土器、石器、金属製品、木製品、埴輪、文字資料等	昭和50年～	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書
昭和53～62年			長岡京跡発掘調査研究所	長岡京跡発掘調査研究所調査報告書、ニュース「長岡京」	
昭和57年～			(公財)長岡京市埋蔵文化財センター	長岡京市埋蔵文化財調査報告書、長岡京市埋蔵文化財センター年報、長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選	
～平成3年3月			長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 本文編1・資料編1(自然環境、考古)	
民俗文化財	民俗資料	乙訓のタケノコ栽培用具	平成12年	長岡京市史編さん委員会	長岡京市文化財調査報告書第40冊 京タケノコと鍛冶文化
	祭り・行事	祭礼・年中行事	平成4年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 民俗編
	食文化	食生活	平成4年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 民俗編

表3-2 長岡京市等による調査(2/2)

文化財類型	小区分	調査対象	時期	調査主体	調査成果刊行物
記念物	遺跡	遺跡、古墳、古道、瓦窯群	昭和50年～	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書
			昭和53～62年	長岡京跡発掘調査研究所	長岡京跡発掘調査研究所調査報告書、ニュース「長岡京」
			昭和57年～	(公財)長岡京市埋蔵文化財センター	長岡京市埋蔵文化財調査報告書、長岡京市埋蔵文化財センター年報、長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選
	～平成3年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 本文編1・資料編1(自然環境、考古)		
	名勝地	庭園、梅林、桜林	平成3年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 資料編1(自然環境、考古)
	動物、植物、地質鉱物	動植物、地形、地質、化石	平成6年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 建築・美術編
総合調査	総合調査	寂照院(仏像、古文書、版木等)	昭和60年3月	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第16冊
		下海印寺地区(埋蔵文化財、古文書・古記録、建築・美術資料、民俗資料、水利、墓地等)	平成22～23年	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第57・58冊
		長岡天満宮(絵画・工芸品)	平成24年11月	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第63冊
		長岡天満宮(古文書)	平成26年3月	長岡京市教育委員会	長岡京市文化財調査報告書第65冊
		勝龍寺城跡	令和2年3月	長岡京市教育委員会	長岡京市歴史資料集成1 勝龍寺城関係資料集
その他	伝承	弟国宮、一文橋等	平成8年3月	長岡京市史編さん委員会	長岡京市史 本文編1

また、これまで本市域で行われた調査には、京都府教育委員会などが主体となって実施されたものもあります。それぞれの成果は、報告書に取りまとめられて公開されています。本市域に関わる、京都府教育委員会による文化財調査は、表3-3に示すとおりです。

表3-3 京都府による調査

文化財類型	小区分	調査対象	時期	調査主体	調査成果刊行物
有形文化財	建造物	近代和風建築	平成21年7月	京都府教育委員会	京都府近代和風建築総合調査報告書
		近代化遺産	平成12年3月	京都府教育委員会	京都府近代化遺産(建造物等)総合調査報告書
	考古資料	石器、土器、埴輪、文字資料等	昭和43年～	京都府教育委員会	京都府埋蔵文化財調査報告書、埋蔵文化財発掘調査概報
			昭和56年～ 平成21～27年10月	(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 京都府教育委員会	京都府遺跡調査報告書、京都府遺跡調査概報 乙訓古墳群調査報告書
無形文化財	工芸技術	竹細工、蠟型鋳物	平成6年3月	京都府教育委員会	伝統の手仕事：京都府諸職関係民俗文化財調査報告書
民俗文化財	風俗慣習	盆踊り	平成12年	京都府教育委員会	京都府の民俗芸能：京都府民俗芸能緊急調査報告書
記念物	遺跡	遺跡、古墳、都城、社寺、城館、古道、瓦窯群	昭和43年～	京都府教育委員会	京都府埋蔵文化財調査報告書、埋蔵文化財発掘調査概報
		古墳	平成21～27年10月	京都府教育委員会	乙訓古墳群調査報告書
		遺跡、城館	平成21～27年3月	京都府教育委員会	京都府中世城館跡調査報告書

## (2)地域計画作成にかかる把握調査

本地域計画では、既存の文化財調査による成果について、前掲した報告書等だけでなく、本市域に関わる文化財を取り扱い、かつ入手可能な文献を広く収集・調査し、未指定文化財を網羅的に抽出する把握調査を行いました。既に知られている指定等文化財と抽出した未指定文化財から、文化財リストを作成しました。この一覧に、位置情報等を付したものを順次登録し、文化財データベースの構築を進めています。

## 2. 指定等文化財

### (1) 指定等文化財の状況

本市域に所在する指定等にかかる文化財は、令和4年(2022)4月1日現在、延べ 161 件を数えます。そのうち、「長岡京市指定文化財」11 件については、「京都府暫定登録文化財」13 件に重複しています。

表3-4 指定・登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)

		国				府					市 指定	計
		指定	選定	登録	選択	指定	登録	選定	暫定登録	決定		
有形文化財	建造物	0	-	24	-	1	1	-	14	-	4	44
	建造物(石造物)	0	-	-	-	0	0	-	0	-	2	2
	絵画	3	-	-	-	2	0	-	26	-	8	39
									(7)		(6)	
	彫刻	3	-	-	-	5	0	-	9	-	5	22
									(6)		(5)	
	書跡・典籍	0	-	-	-	0	0	-	1	-	0	1
	古文書	0	-	-	-	2	0	-	9	-	6	17
考古資料	0	-	-	-	1	0	-	12	-	7	20	
歴史資料	0	-	-	-	0	0	-	2	-	0	2	
無形文化財	-	0	0	-	0	0	-	-	-	0	0	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	-	0	-	0	0	-	0	-	1	1
	無形民俗文化財	0	-	0	0	0	0	-	-	-	0	0
記念物	遺跡(史跡)	1	-	-	-	0	0	-	1	-	4	6
	名勝地(名勝)	0	-	-	-	1	0	-	0	-	0	1
	動物、植物、地質鉱物 (天然記念物)	0	-	0	-	0	1	-	0	-	4	5
伝統的建造物群	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	0	
文化的景観	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	
その他	文化財環境保全地区	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1
計		7	0	24	0	12	2	0	74	1	41	161

※( )内は、府暫定登録文化財と市指定文化財とで重複している件数。重複している件数が、府暫定登録と市指定とで異なるのは、市指定では一対として1件であったものが、府暫定ではそれぞれ個別に登録されたため。

#### ① 国指定・登録

長岡京市には、「国指定文化財」が7件、「国登録文化財」が 24 件所在します。

国は、文化財保護法の規定に基づき、長岡京市内に所在する文化財のうち、3件の絵画及び3件の彫刻を重要文化財に、1件の古墳を史跡に指定しています。また、24 件の建造物を登録有形文化財に登録しています。

表3-5 国指定文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(1/2)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	国重文	絵画	絹本着色二河白道図	東京国立博物館勧告	光明寺	1幅
2	国重文	絵画	絹本着色四十九体化仏 阿弥陀来迎図	奈良国立博物館寄託	光明寺	1幅
3	国重文	絵画	紙本着色法然上人絵伝(弘 願本)	京都国立博物館寄託	個人	3巻
4	国重文	彫刻	木造毘沙門天立像	今里三丁目 14-7	乙訓寺	1軀
5	国重文	彫刻	木造千手観音立像	京都国立博物館寄託	光明寺	1軀
6	国重文	彫刻	木造十一面観音立像	京都国立博物館寄託	勝龍寺	1軀

表3-6 国指定文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(2/2)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
7	国指定	遺跡	乙訓古墳群			5基
			長法寺南原古墳	長法寺南原4・4-2・4-3・9・10・10-1・10-2・10-3、長法寺谷山5、市有道路敷	個人・長岡京市	25,574.50 m <sup>2</sup>
			恵解山古墳	勝竜寺・久貝二丁目地内	長岡京市	19,495.995 m <sup>2</sup>
			井ノ内車塚古墳	井ノ内向井芝4	長岡京市	1,352 m <sup>2</sup>
			井ノ内稻荷塚古墳	井ノ内小西 39・40・51	個人	2,015 m <sup>2</sup>
			今里大塚古墳	天神五丁目 108・109・113-1・113-14・113-15・113-16・113-17・114-2・115-15・115-16	個人・長岡京市	3,739.32 m <sup>2</sup>

表3-7 国登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	国登録	建造物	石田家住宅 主屋	神足二丁目 13-10	長岡京市	1棟
2	国登録	建造物	佐藤家住宅 主屋	長法寺祭ノ神7	個人	1棟
3	国登録	建造物	佐藤家住宅 雑具蔵			1棟
4	国登録	建造物	佐藤家住宅 新蔵			1棟
5	国登録	建造物	佐藤家住宅 西米蔵			1棟
6	国登録	建造物	佐藤家住宅 東米蔵			1棟
7	国登録	建造物	佐藤家住宅 長屋門			1棟
8	国登録	建造物	佐藤家住宅 露地門及び庭塀			1棟
9	国登録	建造物	佐藤家住宅 築地塀			1棟
10	国登録	建造物	佐藤家住宅 高塀			1棟
11	国登録	建造物	中野家住宅 主屋			調子一丁目 31・32・33・34 合併
12	国登録	建造物	中野家住宅 茶室	1棟		
13	国登録	建造物	中野家住宅 土蔵	1棟		
14	国登録	建造物	河合家住宅 主屋	粟生樋ノ前19	個人	1棟
15	国登録	建造物	河合家住宅 土蔵			1棟
16	国登録	建造物	河合家住宅 表門及び高塀			1棟
17	国登録	建造物	河合家住宅 露地門及び仕切り塀			1棟
18	国登録	建造物	河合家住宅 築地塀			1棟
19	国登録	建造物	田村家住宅 離れ(旧鈴木医院)	長法寺南谷 11	個人	1棟
20	国登録	建造物	田村家住宅 茶室任無亭			1棟
21	国登録	建造物	田村家住宅 井戸屋形			1棟
22	国登録	建造物	石田家住宅 主屋	井ノ内北内畑 26	個人	1棟
23	国登録	建造物	石田家住宅 土蔵			1棟
24	国登録	建造物	石田家住宅 土塀			1棟

## ②京都府指定・登録等

長岡京市には、「京都府指定文化財」(指定及び決定)が13件、「京都府登録文化財」が2件、「京都府暫定登録文化財」が74件所在しています。

京都府は、京都府文化財保護条例の規定に基づき、「国指定文化財」を除いた、長岡京市内に所在する文化財のうち、1件の建造物及び2件の絵画、5件の彫刻、2件の古文書、1件の考古資料を京都府指定有形文化財に、1件の庭園を京都府指定名勝に指定するとともに、1件の文化財環境保全地区を決定しています。また、「国指定文化財」・「京都府指定文化財」を除いた、1件の建造物を京都府登録有形文化財に、1件の植物を京都府登録天然記念物に、14件の建造物及び26件の絵画、9件の彫刻、1件の書跡・典籍、9件の古文書、12件の考古資料、2件の歴史資料を京都府暫定登録有形文化財に、1件の境内を京都府暫定登録史跡に登録しています。

表3-8 府指定等文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	府指定	建造物	長岡天満宮本殿	天神二丁目 15-13	長岡天満宮	1棟
2	府指定	絵画	絹本着色紅玻璃阿弥陀像	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1幅
3	府指定	絵画	絹本着色阿弥陀如来像	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1幅
4	府指定	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	浄土谷宮ノ谷4	乗願寺	1軀
5	府指定	彫刻	木造千手観音立像 附 紙本墨書承元四年修造勸進結縁願文1巻、紙本墨書修造勸進結縁奉加状1巻、紙本墨書戒名札1巻	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1軀
6	府指定	彫刻	木造十一面観音坐像	東神足二丁目 12-4	観音寺	1軀
7	府指定	彫刻	木造四天王立像	奥海印寺明神前 31	寂照院	4軀
8	府指定	彫刻	木造菩薩立像	勝竜寺 19-25	勝龍寺	1軀
9	府指定	古文書	調子八郎家文書	山城郷土資料館寄託	個人	725点
10	府指定	古文書	寂照院金剛力士造立結縁交名 (紙背御成敗式目)	山城郷土資料館寄託	長岡京市	1巻
11	府指定	考古資料	恵解山古墳出土品	山城郷土資料館寄託	長岡京市	一括
12	府指定	名勝地	楊谷寺庭園	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	365㎡
13	府決定	保全地区	楊谷寺文化財環境保全地区	浄土谷堂ノ谷2 ほか	楊谷寺他	11.4ha

表3-9 府登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	府登録	建造物	楊谷寺 本堂1棟、庫裏及び書院1棟、 表門1棟	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	3棟
2	府登録	動物、植物、 地質鉱物	寂照院のモウソウチク林	奥海印寺明神前31	寂照院	400㎡

表3-10 府暫定登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(1/3)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	府暫定登録	建造物	子守勝手神社 本殿	粟生清水谷 28-1	十人衆(地区の 長老)※観音寺 (粟生)	1棟
2	府暫定登録	建造物	乗願寺 本堂	浄土谷宮ノ谷4	乗願寺	1棟
3	府暫定登録	建造物	角宮神社 本殿	井ノ内南内畑 35	角宮神社	1棟



表3-11 府暫定登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(2/3)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
4	府暫定登録	建造物	角宮神社 春日神社本殿	井ノ内南内畑 35	角宮神社	1棟
5	府暫定登録	建造物	角宮神社 末社八幡宮本殿	井ノ内南内畑 35	角宮神社	1棟
6	府暫定登録	建造物	走田神社 本殿	奥海印寺走田3	走田神社	1棟
7	府暫定登録	建造物	走田神社 本殿覆屋	奥海印寺走田3	走田神社	1棟
8	府暫定登録	建造物	楊谷寺 阿弥陀堂	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
9	府暫定登録	建造物	楊谷寺 経蔵	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
10	府暫定登録	建造物	楊谷寺 鐘楼	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
11	府暫定登録	建造物	楊谷寺 稻荷社	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
12	府暫定登録	建造物	楊谷寺 独鈷水堂 <small>おこがずいどう</small>	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
13	府暫定登録	建造物	楊谷寺 玄関	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
14	府暫定登録	建造物	楊谷寺 手洗屋形	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1棟
15	府暫定登録	絵画	絹本着色阿弥陀聖衆来迎図 <small>あみだしょうじゅうらいごうず</small>	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
16	府暫定登録	絵画	絹本着色阿弥陀聖衆来迎図	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
17	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	絹本着色地藏菩薩像	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
18	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	絹本着色地藏菩薩像	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
19-34	府暫定登録	絵画	絹本着色十六羅漢像 (その一～その十六)	粟生西条内 26-1	光明寺	16 幅
35-36	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	絹本着色羅漢像 (その一・その二)	粟生西条内 26-1	光明寺	2幅
37	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	絹本着色楊柳観音像	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
38	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	絹本着色仏涅槃図	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
39	府暫定登録	絵画	絹本着色十一尊図	京都国立博物館寄託	光明寺	1幅
40	府暫定登録 (市指定と重複)	絵画	光明寺障壁画(旧宝永度内裏常御殿障壁画) 附 紙本着色大和絵人物図屏風	粟生西条内 26-1	光明寺	55 面
41	府暫定登録 (市指定と重複)	彫刻	木造十一面観音立像	今里三丁目 14-7	乙訓寺	1軀
42	府暫定登録	彫刻	木造狛犬	今里三丁目 14-7	乙訓寺	2軀
43	府暫定登録	彫刻	木造釈迦如来立像	粟生西条内 26-1	光明寺	1軀
44	府暫定登録	彫刻	木造千手観音坐像	奥海印寺明神前 31	寂照院	1軀
45-46	府暫定登録 (市指定と重複)	彫刻	木造金剛力士立像 阿形・吽形	奥海印寺明神前 31	寂照院	2軀
48	府暫定登録 (市指定と重複)	彫刻	木造神将形立像 阿形 <small>しんしょうぎょうりゅうぞう</small>	勝竜寺 19-25	勝龍寺	1軀
48	府暫定登録 (市指定と重複)	彫刻	木造神将形立像 吽形 <small>しんしょうぎょうりゅうぞう</small>	勝竜寺 19-25	勝龍寺	1軀
49	府暫定登録 (市指定と重複)	彫刻	木造十一面観音立像	勝竜寺 19-25	勝龍寺	1軀
50	府暫定登録	書跡・典籍	後柏原天皇宸翰三首和歌懐紙 <small>ごかしやばらてんのうしんかん</small>	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1幅
51	府暫定登録	古文書	乙訓寺文書	今里三丁目 14-7	乙訓寺	1,267 点
52	府暫定登録	古文書	長岡天満宮文書	天神二丁目 15-13	長岡天満宮	6,822 点

表3-12 府暫定登録文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(3/3)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
53	府暫定登録	古文書	楊谷寺文書	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	5,343点
54	府暫定登録	古文書	楊谷寺棟札類	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	7枚
55	府暫定登録	古文書	石田市左衛門家文書	井ノ内	個人	239点
56	府暫定登録	古文書	石田瀨兵衛家文書	井ノ内	個人	3,664点
57	府暫定登録	古文書	佐藤久左衛門家文書	長法寺	個人	2,444点
58	府暫定登録	古文書	能勢四郎右衛門家文書	今里	個人	2,434点
59	府暫定登録	古文書	樋口家文書	今里	個人	2,319点
60	府暫定登録	考古資料	重層ガラス玉 宇津久志1号墳出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
61	府暫定登録	考古資料	漆紗冠 長岡京跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
62	府暫定登録	考古資料	鉄製品 恵解山古墳出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	一括
63	府暫定登録	考古資料	土偶 雲宮遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
64	府暫定登録	考古資料	銅剣 神足遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1口
65	府暫定登録	考古資料	土笛 谷山遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
66	府暫定登録	考古資料	陶棺 北平尾1号墳出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1合
67	府暫定登録	考古資料	漆器鉢 長岡京跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
68	府暫定登録	考古資料	漆器合子 長岡京跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
69	府暫定登録	考古資料	祭祀具 西山田遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	一括
70	府暫定登録	考古資料	須恵器絵画線刻土器 井ノ内遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	1点
71	府暫定登録	考古資料	旧石器 南栗ヶ塚遺跡出土	長岡京市立埋蔵文化財調査センター	長岡京市	16点
72	府暫定登録	歴史資料	曳覆曼荼羅版木	長岡京市教育委員会寄託	寂照院	1枚
73	府暫定登録	歴史資料	算額 寛政二年十二月今堀直方奉納	天神二丁目 15-13	長岡天満宮	3面
74	府暫定登録	遺跡	楊谷寺境内	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1件

### ③長岡京市指定

長岡京市には、「長岡京市指定文化財」が41件所在します。長岡京市は、長岡京市文化財保護条例の規定に基づき、「国指定文化財」・「京都府指定文化財」を除いた、6件の建造物(建造物(石造物)を含む)及び8件の絵画、5件の彫刻、6件の古文書、7件の考古資料を長岡京市指定有形文化財に、1件の器具を長岡京市指定民俗資料に、1件の古墳、2件の城跡、1件の生産活動に関する遺跡を長岡京市指定史跡に、4件の植物を長岡京市指定天然記念物に指定しています。

表3-13 市指定文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(1/2)

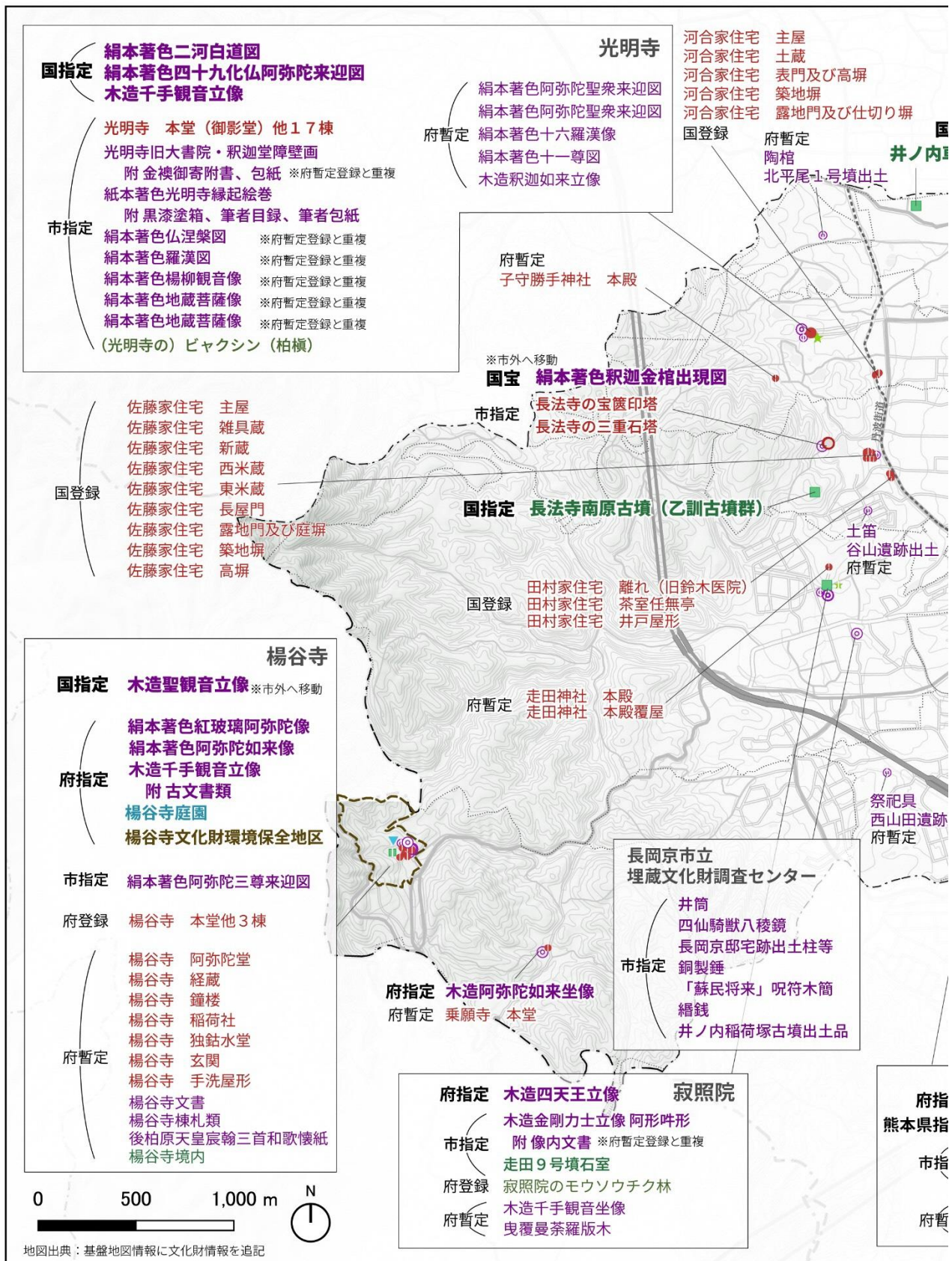
No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
1	市指定	建造物	乙訓寺 本堂(附 宮殿)1棟、鎮守八幡社1棟、鐘楼1棟、表門1棟、裏門1棟、附棟札2枚(元禄8年)	今里三丁目14-7	乙訓寺	5棟
2	市指定	建造物	光明寺 本堂(御影堂)1棟、附 棟札3枚、渡廊下(本堂・阿弥陀堂間)1棟、阿弥陀堂1棟、附 棟札3枚、釈迦堂1棟、勅使門1棟、経蔵1棟、観音堂1棟、鐘楼1棟、附 銘札1枚、總門1棟、薬医門1棟、御廟1棟、御廟拝殿1棟、附 御廟門・石柵1棟(文化5年)、勢至堂1棟、納骨堂1棟、大書院1棟、附 玄関1棟、棟札1枚、講堂1棟、食堂1棟、衆寮門1棟	粟生西条内26-1	光明寺	17棟
3	市指定	建造物	赤根天神社 本殿拝所1棟、附 本殿覆屋1棟、瓦製狛犬1対	今里四丁目214-1	赤根天神社	1棟
4	市指定	建造物 (石造物)	長法寺の三重石塔	長法寺谷田16	長法寺	1基
5	市指定	建造物 (石造物)	長法寺の宝篋印塔	長法寺谷田16	長法寺	1基
6	市指定	建造物	長岡天満宮 祝詞舎1棟、透塀3棟、築地塀1棟、神饌所1棟、八幡宮神社本殿1棟、春日大明神本殿1棟、社務所(連歌所)1棟、手水舎(旧祝詞舎)1棟	天神二丁目15-13	長岡天満宮	10棟
7	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	絹本着色地藏菩薩像	粟生西条内26-1	光明寺	1幅
8	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	絹本着色仏涅槃図	粟生西条内26-1	光明寺	1幅
9	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	絹本着色地藏菩薩像	粟生西条内 26-1	光明寺	1幅
10	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	絹本着色羅漢図	粟生西条内26-1	光明寺	2幅
11	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	絹本着色楊柳観音像	粟生西条内26-1	光明寺	1幅
12	市指定	絵画	紙本着色光明寺縁起絵巻 附 黒漆塗箱1合、筆者目録1枚、筆者包紙1枚	京都国立博物館寄託	光明寺	3巻
13	市指定(府暫定登録と重複)	絵画	光明寺旧大書院・釈迦堂障壁画 紙本着色巖島図 19面、紙本着色龍田図 8面、紙本墨画四季真山水図 12面、紙本着色春日野行幸図 4面、紙本着色大和絵風景図 12面、附 金襴御寄附書1枚、包紙1枚	粟生西条内26-1	光明寺	55面
14	市指定	絵画	絹本着色阿弥陀三尊来迎図	浄土谷堂ノ谷2	楊谷寺	1幅
15	市指定(府暫定登録と重複)	彫刻	木造十一面観音立像	勝竜寺19-25	勝龍寺	1軀
16	市指定(府暫定登録と重複)	彫刻	木造二天王立像(持国天)	勝竜寺19-25	勝龍寺	1軀
17	市指定(府暫定登録と重複)	彫刻	木造二天王立像(多聞天)	勝竜寺19-25	勝龍寺	1軀



表3-14 市指定文化財一覧(令和4年(2022)4月1日現在)(2/2)

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	備考
18	市指定 (府暫定登録 と重複)	彫刻	木造十一面観音立像	今里三丁目14-7	乙訓寺	1軀
19	市指定 (府暫定登録 と重複)	彫刻	木造金剛力士立像 附 像内文書6点	奥海印寺明神前31・ 長岡京市教育委員会 寄託	寂照院	2軀
20	市指定	古文書	古市村・神足村絵図	長岡京市教育委員会	長岡京市	1舗
21	市指定	古文書	古市村・神足村実相院領絵図写	今里三丁目14-7	乙訓寺	1舗
22	市指定	古文書	古市村・神足村実相院領絵図 附 古市村・神足村乙訓寺領絵図 1舗	今里三丁目14-7	乙訓寺	2舗
23	市指定	古文書	山城国乙訓郡神足村微細絵図	山城郷土資料館寄託	個人	2舗1組
24	市指定	古文書	鷹司様御領分乙訓郡井内村之図	井ノ内北内畑26	個人	1舗
25	市指定	古文書	今里区有文書	今里自治会館	今里自治会	4,941点
26	市指定	考古資料	いづつ 井筒	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	1体
27	市指定	考古資料	しせんきじゅうはちりょうきょう 四仙騎獣八稜鏡	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	1面
28	市指定	考古資料	長岡京邸宅跡出土柱等 (柱9本、礎板4枚、軒丸瓦3点、瓦 片10点)	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	一括
29	市指定	考古資料	どうせい 銅製錘	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	1点
30	市指定	考古資料	「蘇民将来」呪符木簡	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	1点
31	市指定	考古資料	こしぎ 緒銭	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	1緋
32	市指定	考古資料	井ノ内稲荷塚古墳出土品	長岡京市立埋蔵文化 財調査センター	長岡京市	一括
33	市指定	民俗資料	こんれんじ 金蓮寺の太鼓	長岡一丁目45-3	金蓮寺	1張
34	市指定	遺跡	走田9号墳石室	奥海印寺明神前31	寂照院	35.47 ㎡
35	市指定	遺跡	開田城跡土塁	天神一丁目313-1・ 313-12	エスリード長 岡天神管理組 合・長岡京市	450.8 4 ㎡
36	市指定	遺跡	乙訓寺窯跡2号窯	今里四丁目4-14	個人	89.08 ㎡
37	市指定	遺跡	勝龍寺城土塁・空堀跡	東神足二丁目7-6、8 -6、10-2、23-18、 23-19	長岡京市	1,289. 52 ㎡
38	市指定	動物、植物、 地質鉱物	(光明寺の)ビヤクシン(柏楨)	粟生西条内26-1	光明寺	1本
39	市指定	動物、植物、 地質鉱物	(長岡天満宮の)キリシマツツジ	天神二丁目15-13	長岡京市	1群
40	市指定	動物、植物、 地質鉱物	(浄土谷の)ヤマモモ(楊梅)	浄土谷船ヶ谷	個人	1本
41	市指定	動物、植物、 地質鉱物	乙訓寺のモチノキ	今里三丁目14-7	乙訓寺	1本

指定等文化財のうち、所在地を公表していないものを除いて、それぞれ地図上に示すと図3-1のようになります。寺社が所有する建造物や美術工芸品、及び境内の天然記念物のほか、西国街道・丹波街道沿いを中心に、本市全域に分布していることがわかります。



※「美術工芸品」は便宜上、実際の所在地ではなく管理者(寺社等)の位置で示す。



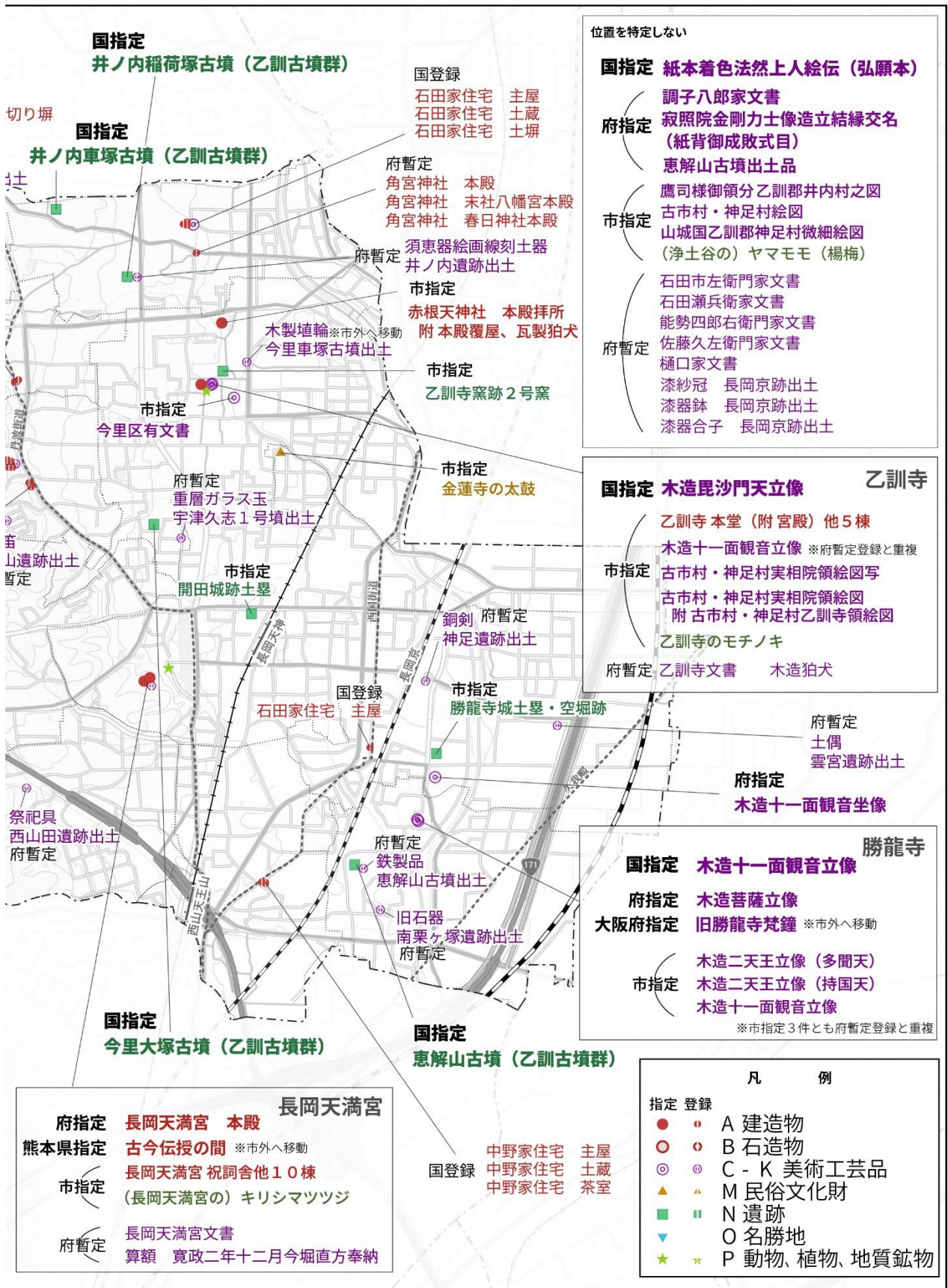


図3-1 指定等文化財分布図

(令和4年(2022)4月1日現在)

## (2) 指定等文化財の概要

### ① 時代区分からみた概要

指定等文化財を、時代区分・指定区分別に整理すると、下表の通りとなります。中世に区分される文化財が61件と最も多く計上されましたが、そのうち12件は市指定文化財と重複する府暫定登録文化財であり、これを除くと49件となります。次いで、近世の文化財が40件と多く計上されていますが、これも市指定と重複している府暫定を除くと39件となります。

次いで、古代が23件、近代が14件、先史が4件の順となっています。また、複数の時代区分にまたがるものや時代を特定しがたいものなどが、19件となっています。

表3-15 指定等文化財の時代区分・指定区分別件数

時代区分	国指定	国登録	府指定	府登録	府暫定		府決定	市指定		計
					市指定と重複なし	市指定と重複		府暫定と重複なし	府暫定と重複	
先史	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
古代	3	0	3	0	8	0	0	9	0	23
中世	4	0	6	0	24	12	0	5	10	61
近世	0	13	1	1	13	1	0	10	1	40
近代	0	10	1	0	3	0	0	0	0	14
長期・不明	0	1	1	1	9	0	1	6	0	19
合計	7	24	12	2	61	13	1	30	11	161

※重複している件数が、府暫定登録文化財と市指定文化財とで異なるのは、市指定では一対として1件であったものが、府暫定ではそれぞれ個別に登録されたため。

次に、指定等文化財を、時代区分・文化財類型別に整理すると、下表の通りとなります。中世の文化財は鎌倉時代から室町時代にかけての絵画および彫刻が計54件確認され、重複する府暫定の件数を除いても42件と、その過半を占めています。

近世に区分される文化財は、建造物が27件、古文書が6件と多くなっています。古代の文化財では、考古資料を16件数えますが、その内訳は長岡京時代が10件、古墳時代が5件、平安時代が1件となっており、長岡京が所在した本市域の特徴を表しています。近代の文化財は、14件全てが建造物です。また、先史の文化財ですが、考古資料が4件と少なく、旧石器時代～弥生時代の出土遺物のみとなっています。なお、長期・不明は、複数の時代区分にまたがる古文書群や、時代を特定しがたい天然記念物などを分類しています。

以上より、時代区分からみた本市の指定等文化財の特徴として、中世・近世の文化財が比較的多く、中世は絵画・彫刻、近世は建造物が中心となっていることが挙げられます。また、先史・古代・近代の文化財は中世・近世に比して少なく、主として、先史は旧石器時代～弥生時代の出土遺物、古代は長岡京の出土遺物、近代は建造物からなります。

表3-16 指定等文化財の時代区分・文化財類型別件数

時代区分	有形文化財										有形民俗文化財	記念物			その他 文化財環境 保全地区	計	
	建造物		絵画		彫刻		書跡・ 典籍	古文 書	考古 資料	歴史 資料		遺跡	名勝 地	動物、植 物、地質 鉱物		重複 なし	重複
	建造物	石造物	重複なし	重複	重複なし	重複											
先史	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	
古代	0	0	0	0	4	0	0	0	16	0	0	3	0	0	23	0	
中世	0	2	30	6	12	6	1	1	0	1	0	2	0	0	49	12	
近世	27	0	2	1	0	0	0	6	0	1	1	1	1	0	39	1	
近代	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	
長期・不明	3	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	5	19	0	
合計	44	2	32	7	16	6	1	17	20	2	1	6	1	5	148	13	

※「重複」は、府暫定登録文化財のうち、市指定文化財と重複している件数。「重複なし」は、それを除いて計上したものの。

②地域区分からみた概要

指定等文化財を、近代町村の旧3ヶ村による地域区分・指定区分別に整理すると、下表のとおりです。

旧 乙訓村の文化財が 91 件と特に多くなっています。そのうち、市指定文化財と重複している府暫定登録文化財が 8 件含まれており、これを除くと 83 件となります。旧 新神足村の文化財が 35 件で、市指定と重複している府暫定を除くと 32 件、旧 海印寺村が 33 件で、同じく重複を除くと 31 件となっています。

表3-17 指定等文化財の地域区分・指定区分別件数

地域区分	国指定	国登録	府指定	府登録	府暫定		府決定	市指定		計
					市指定と重複なし	市指定と重複		府暫定と重複なし	府暫定と重複	
旧 新神足村	1	4	5	0	8	3	0	11	3	35
旧 海印寺村	0	0	7	2	17	2	1	3	1	33
旧 乙訓村	4	20	0	0	36	8	0	16	7	91
複数地域・不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	7	24	12	2	61	13	1	30	11	161

※重複している件数が、府暫定登録文化財と市指定文化財と異なるのは、市指定では一対として1件であったものが、府暫定ではそれぞれ個別に登録されたため。

※「複数地域」は、複数の旧村地域にまたがるものを指す。

次に、指定等文化財を、地域区分・文化財類型別に整理すると、下表の通りとなります。

旧 乙訓村の文化財では、絵画が 35 件、市指定と重複している府暫定を除いても 21 件と多く、これらは全て光明寺所有の絵画です。また、建造物も 27 件を数え、そのうち 20 件は国登録の丹波街道沿いを中心とした民家建築です。その他の類型についても、古文書が 10 件、考古資料が 8 件と比較的に多くなっています。

旧 新神足村の文化財では、考古資料が 11 件と多く、そのうち 6 件は長岡京時代の出土遺物です。また、彫刻は重複を除いて 6 件を数え、これらのうち 5 件は勝龍寺が所有する鎌倉時代の仏・神像です。建造物も 6 件あり、そのうち 4 件は国登録の西国街道沿いの民家建築です。

旧 海印寺村の文化財では、建造物が 11 件と多く、そのうち 8 件が楊谷寺を構成する建造物で、その他の 3 件も寺社の建造物です。また、彫刻が重複を除いて 3 件、絵画が 3 件を数えますが、これらは楊谷寺や寂照院など寺院の文化財となっています。

以上より、地域区分からみた本市の指定等文化財の特徴として、旧 乙訓村地域の文化財が特に多く、同地域の文化財には光明寺の絵画や丹波街道沿いの民家建築などが多く含まれることが挙げられます。一方、旧 新神足村の文化財は、長岡京時代の考古資料や、勝龍寺所有の彫刻、西国街道沿いの民家建築などが占めています。また、旧 海印寺村の文化財は、主として楊谷寺を中心とした寺社の建造物や絵画・彫刻となっています。

表3-18 指定等文化財の地域区分・文化財類型別件数

地域区分	有形文化財										有形民俗文化財	記念物			その他 文化財 環境保 全地区	計	
	建造物		絵画		彫刻		書跡・ 典籍	古文 書	考古 資料	歴史 資料		遺跡	名勝 地	動物、植 物、地質 鉱物		重複 なし	重複
	建造物	石造物	重複なし	重複	重複なし	重複											
旧 新神足村	6	0	0	0	6	3	0	4	11	1	1	2	0	1	0	32	3
旧 海印寺村	11	0	3	0	5	2	1	3	1	1	0	2	1	2	1	31	2
旧 乙訓村	27	2	28	7	5	1	0	10	8	0	0	1	0	2	0	83	8
複数地域・不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
合計	44	2	32	7	16	6	1	17	20	2	1	6	1	5	1	148	13

※※「重複」は、府暫定登録文化財のうち、市指定文化財と重複している件数。「重複なし」は、それを除いて計上したものの。

※「複数地域」は、複数の旧村地域にまたがるものを指す。



### 3. 未指定文化財

#### (1) 未指定文化財の状況

本市に所在する未指定文化財は、本地域計画作成にかかる把握調査によって、1,039 件が抽出できました(巻末資料編を参照)。そのうち美術工芸品が 318 件と最も多く、建造物や石造物、古文書、考古資料などを合わせた有形文化財全体で 804 件を数え、80%近くを占めています。他方、無形文化財が3件と1%に満たないことが特徴といえます。

表3-19 未指定文化財の類型別件数

区分	種別	抽出件数	
有形文化財	建造物	建造物	63
		石造物	176
		その他	8
	美術工芸品	絵画	83
		彫刻	99
		工芸品	136
	歴史資料等	書跡・典籍	0
		古文書	123
		考古資料	97
		歴史資料	19
有形文化財 計		804	
無形文化財	-	3	
民俗文化財	有形民俗文化財	1	
	無形民俗文化財	76	
民俗文化財 計		77	
記念物	遺跡	129	
	名勝地	15	
	動物、植物、地質鉱物	4	
	記念物 計	148	
文化的景観	-	3	
その他	文化財環境保全地区	0	
	伝承	3	
	その他	1	
	その他 計	4	
合計		1,039	

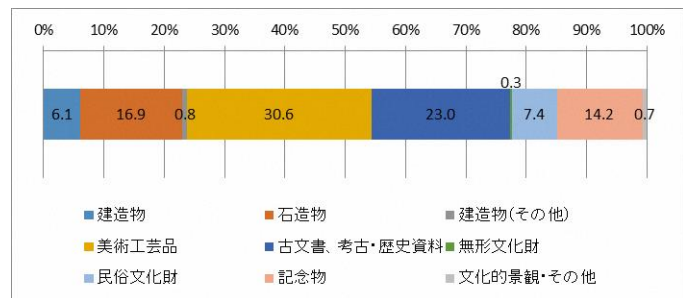


図3-2 未指定文化財の類型別比率

また、未指定文化財の時代区分をみると、近世が 373 件と最も多く、次いで古代が 156 件、近代が 134 件の順となっています。古代の内訳として、古墳時代(59 件)と長岡京時代(53 件)が特に多くなっています。

表3-20 未指定文化財の時代区分別件数

大区分	小区分	件数
先史	旧石器以前	7
	縄文	7
	弥生	8
	その他先史時代	3
古代	古墳	59
	飛鳥	3
	奈良	7
	長岡京	53
	平安	24
	その他古代	10
	鎌倉	13
中世	南北朝	10
	室町	24
	戦国	5
	安土桃山	3
	その他中世	10
	江戸	373
近代	明治・大正	61
	昭和以降	53
	その他近代	20
長期にまたがるもの		123
不明その他		163
合計		1,039

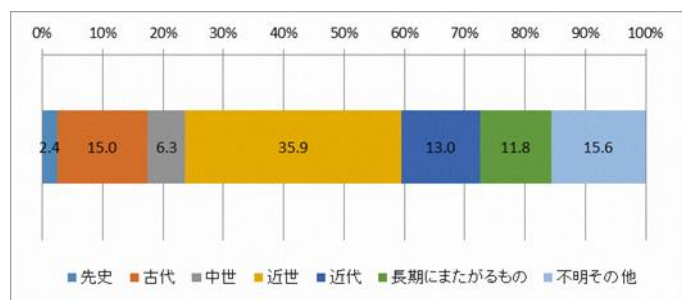


図3-3 未指定文化財の時代区分別比率

※「長期にまたがるもの」は、複数の大区分にまたがるものを指す。「不明その他」には、時代を特定しがたいものを含む。また、「その他先史」「その他古代」「その他中世」「その他近代」は、各大区分のなかで複数の小区分にまたがるものを指す。

一方、その所在地をみると、指定等文化財と同様、西部の山間部やかつて水田が広がっていた東部の低地を除いて、市域全域に分布していることがわかります。

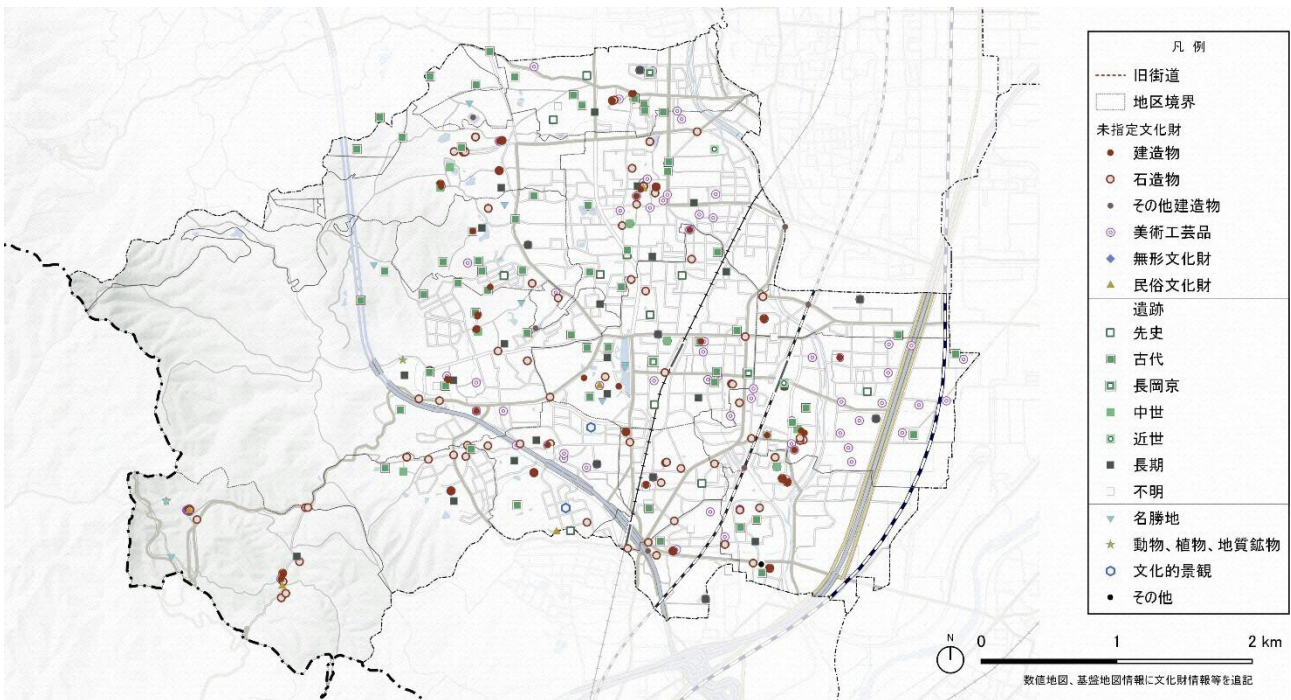


図3-4 未指定文化財分布図

さらに、地区別に分布をみると、市域東部に位置する神足地区が112件(10.8%)と最も多く、勝竜寺地区が91件(8.8%)、開田地区が87件(8.4%)で、友岡地区・馬場地区・調子地区及び複数地区にまたがるものを合わせた、旧新神足村地域が381件(36.7%)を占めます。市域北部に位置する今里地区が106件(10.2%)、粟生地区が105件(10.1%)と続き、井ノ内地区・長法寺地区・複数地区を合わせた、旧乙訓村地域の合計は324件(31.2%)を数えます。市域南西部に位置する浄土谷地区は102件(9.8%)、奥海印寺地区は86件(8.3%)で、下海印寺地区・金ヶ原地区・複数地区を合わせた、旧海印寺村地域が266件(25.6%)となっています。

表3-21 未指定文化財の地区別件数

地域	地区	件数	比率	備考
旧新神足村	馬場	29	2.8	
	神足	112	10.8	うち古市19
	勝竜寺	91	8.8	
	調子	26	2.5	
	友岡	31	3.0	
	開田	87	8.4	
	複数地区	5	0.5	
旧海印寺村	奥海印寺	86	8.3	
	下海印寺	51	4.9	
	金ヶ原	25	2.4	
	浄土谷	102	9.8	
複数地区	2	0.2		
旧乙訓村	今里	106	10.2	うち飛地2
	長法寺	50	4.8	
	粟生	105	10.1	
	井ノ内	55	5.3	うち飛地4
複数地区	8	0.8		
複数地域	22	2.1		
不明その他	46	4.4		
合計		1,039	100.0	

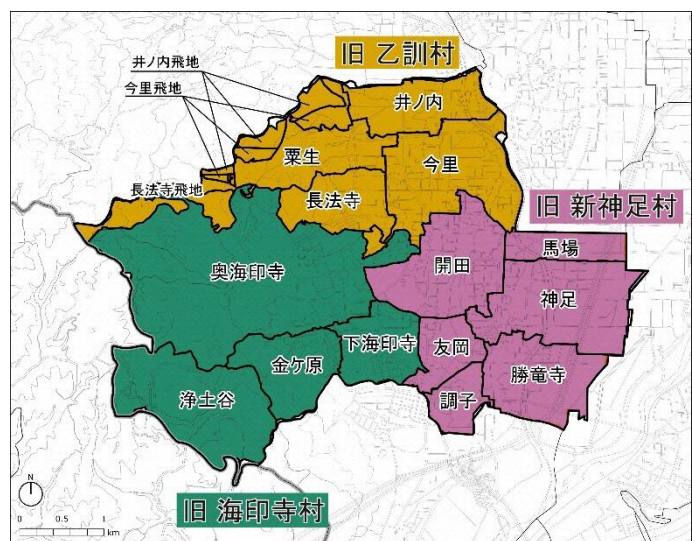


図3-5 地域区分

※「複数地区」は、旧村地域内で複数の地区にまたがるものを指す。「複数地域」は複数の旧村地域にまたがるものを指す。「不明その他」は、場所が不明なもの、市域全体にまたがるものなどが含まれる。

## (2)未指定文化財の概要

### ①時代区分からみた概要

未指定文化財を、時代区分・文化財類型別に整理すると、下表の通りです。近世の未指定文化財が計 373 件と最も多く、そのうち美術工芸品は 218 件と多くを占めています。また、美術工芸品のなかでは、金工品を中心とした工芸品が 102 件と最も多くなっています。次いで、石造物が 112 件、歴史資料等が 20 件、建造物が 14 件となっています。古代は計 156 件抽出され、そのうち考古資料が 79 件、遺跡が 66 件を数えます。近代は計 134 件で、そのうち歴史資料等が 41 件、金工品などの美術工芸品が 41 件、建造物が 32 件となっています。中世は計 65 件と少なく、そのうち美術工芸品が 25 件、石造物が 23 件を数えます。先史は計 25 件で、そのうち遺跡などの記念物が 14 件、考古資料が 11 件あります。なお、長期に渡るもの及び不明が 286 件あり、複数の時代区分にまたがる古文書や遺跡、時代区分を特定しがたい無形民俗文化財などが含まれます。

以上より、時代区分からみた本市の未指定文化財の特徴として、美術工芸品や石造物などを中心に近世の文化財が多いことが挙げられます。古代の未指定文化財では考古資料と遺跡、近代では歴史資料等や美術工芸品、建造物が多く抽出されています。また、先史と中世の未指定文化財が少なくなっていますが、そのなかで先史は遺跡と考古資料が、中世は美術工芸品と石造物が比較的多く抽出されています。

表3-22 未指定文化財の時代区分・類型別件数

時代区分	建造物			美術工芸品			歴史資料等			無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	その他		計	
	建造物	石造物	その他	絵画	彫刻	工芸品	古文書	考古資料	歴史資料		有形	無形	遺跡	名勝地	植物、動物、地質鉱物		伝承	その他		
先史	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	11	0	3	0	0	0	25
古代	0	0	0	0	9	0	0	79	0	0	0	0	66	0	0	0	2	0	0	156
中世	0	23	0	9	15	1	2	7	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	65
近世	14	112	2	58	58	102	16	0	4	0	0	0	4	2	0	0	1	0	373	
近代	32	8	4	8	1	32	28	0	13	2	1	0	0	2	0	2	0	1	134	
長期・不明	17	33	2	8	16	1	77	0	2	1	0	76	40	11	1	1	0	0	286	
合計	63	176	8	83	99	136	123	97	19	3	1	76	129	15	4	3	3	1	1,039	

### ②地域区分からみた概要

未指定文化財を、近代町村の旧3ヶ村による地域区分・文化財類型別に整理すると、下表の通りとなります。既に述べたとおり、旧 新神足村の未指定文化財は計 381 件を数え、最も多くなっていますが、そのなかで歴史資料等が 118 件と多くを占めており、次いで美術工芸品が 84 件、石造物が 78 件の順となっています。次に、旧 乙訓村は計 324 件で、とりわけ美術工芸品が 115 件と多く、次いで歴史資料等の 64 件、記念物の 54 件の順となっています。旧 海印寺村は 266 件と最も少なく、美術工芸品が 115 件と多くを占め、石造物の 48 件、歴史資料等の 41 件の順となっています。

以上より、地域区分からみた本市の未指定文化財の特徴として、旧 新神足村の未指定文化財が最も多く、次いで、旧 乙訓村、旧 海印寺村の順となっており、旧 新神足村では歴史資料等の占める割合が高いのに対し、他の2地域では美術工芸品の割合が高くなっていることが挙げられます。

表3-23 未指定文化財の地域区分・類型別件数

時代区分	建造物			美術工芸品			歴史資料等			無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	その他		計
	建造物	石造物	その他	絵画	彫刻	工芸品	古文書	考古資料	歴史資料		有形	無形	遺跡	名勝地	植物、動物、地質鉱物		伝承	その他	
旧 新神足村	29	78	3	14	34	36	57	54	7	2	0	13	48	4	1	0	0	1	381
旧 海印寺村	16	48	1	30	36	49	35	5	1	0	0	10	28	4	2	1	0	0	266
旧 乙訓村	18	50	4	36	28	51	29	32	3	1	1	17	48	5	1	0	0	0	324
複数地区・不明	0	0	0	3	1	0	2	6	8	0	0	36	5	2	0	2	3	0	68
合計	63	176	8	83	99	136	123	97	19	3	1	76	129	15	4	3	3	1	1,039



## 4. 類型別にみた文化財の概要と特徴

### (1)有形文化財(建造物)

#### ①寺院建築

寺院建築の指定文化財として、市指定の乙訓寺本堂など5棟、光明寺本堂など17棟の2件があります。また、登録文化財には府登録として、楊谷寺本堂など3棟の1件があります。府暫定には、兼願寺本堂及び楊谷寺阿弥陀堂など7件の計8件があります。

乙訓寺は、飛鳥時代の創建とされ、平安時代初期には空海が別当を務めた時期もありますが、室町時代から江戸時代前期には禅宗寺院、法皇寺として推移しました。現存する堂舎のうち古いものは、元禄8年(1695)護持院隆光の尽力と将軍徳川綱吉・その生母桂昌院の援助により、真言宗寺院として再建されたものです。本堂(大師堂)は宝形造・本瓦葺で、装飾的な要素の少ない簡素な建物です。鎮守八幡社本殿は、一間社流造・棧瓦葺で、正徳2年(1712)ごろの完成と推定され、造営期間にはやや幅があったとみられています。

光明寺は、西山浄土宗の総本山で、建久9年(1198)法然の弟子蓮生(熊谷直実)が、念仏三昧院を建立したことが始まりとされます。本堂(御影堂)は宝暦3年(1753)の上棟で、本市域最大の木造建築です。開祖法然を祀る御廟は宝形造・檜皮葺、明暦2年(1656)の建立で、本市域に現存する年代の明らかな建物では、最も古いものです。御廟拜堂は入母屋造・檜皮葺で、承応2年(1653)に建てられたと推定されています。

楊谷寺は、柳谷観音の通称で親しまれ、江戸時代前期の再興以降、皇室の帰依や各地の講組織の盛んな活動で広く信仰を集め、かつては門前町が形成されていました。本堂は入母屋造・本瓦葺で、弘化4年(1847)に大改造が施されたと推定されています。本堂の西側に連なる玄関・庫裏・書院は江戸時代後期、表門は安永年間(1772～81)に建立されたと考えられており、壮観な伽藍景観を構成しています。

未指定文化財には、勝龍寺や観音寺(神足)など、31件の寺院建築が確認されています。本市域の寺院の多くは、民家と変わらない広さの敷地に、本堂と庫裏兼用の建物、及び地藏堂や鎮守社などからなるのが一般的ですが、近代以降その多くが建て替えられました。勝龍寺の本堂は入母屋造・本瓦葺で、元治元年(1864)から明治4年(1871)の間に建てられたと考えられています。また、本堂内に安置されている、禅宗様の厨子と須弥壇の年代は本堂より古く、江戸時代前期まで遡ります。厨子は横長の方一間、妻入屋根・軒唐破風付きです。観音寺(神足)の本堂は庫裏を兼ねており、入母屋造・棧瓦葺で、柱には宝暦8年(1758)の銘が刻まれています。



乙訓寺 本堂



光明寺 勅使門



楊谷寺 庫裏

#### ②神社建築

神社建築の指定文化財として、府指定の長岡天満宮本殿や市指定の赤根天神社本殿、長岡天満宮祝詞舎など10棟の3件が指定されています。また、登録文化財には府暫定として、走田神社本殿、走田神社本殿

覆屋、子守勝手神社本殿、角宮神社本殿、角宮神社春日神社本殿、角宮神社末社八幡宮本殿の6件があります。

長岡天満宮は、かつては「開田天満天神」として天神山ではなく、現在の天神1丁目付近に所在したと考えられています。元和3年(1617)、境内一帯及び開田村のほぼ全域が八条宮家領となって以降、同家と深い関わりを持ちました。本殿は、明治28年(1895)に造営された平安神宮の社殿を、昭和16年(1941)に移築したもので、彩色のない素木三間社流造・檜皮葺、建築家で建築史学を樹立した伊東忠太による設計です。祝詞舎と透塀も、ともに移築されました。また、境内には、延宝4年(1676)造営とされる八幡宮神社本殿及び春日大明神本殿が並置されています。



赤根天神社 本殿覆屋

赤根天神社は、もとは井ノ内地区の旧家、石田家屋敷内の鎮守社であったとも、向日神社(向日市)の御旅所であったともいわれますが、現在は今里地区の鎮守として祀られています。覆屋内の本殿は、正徳3年(1713)の造営と伝えられ、一間社流造・こけら葺で、比較的規模が大きく木割も太い、全体に堅実な造りとなっています。

走田神社は、江戸時代には妙見宮と称し、奥海印寺・長法寺両村の氏神として、また寂照院の鎮守社として奉斎されています。本殿は、文政8年(1825)に再建されたものとされ、大型の一間社隅木入春日造で、同じ春日造でも奈良春日大社とは系統が異なるものです。屋根は檜皮葺で、彫刻装飾が発達し、近世後期の傾向をよく示しています。



走田神社 本殿覆屋

子守勝手神社は、粟生山観音寺に隣接し、本殿は文政13年(1830)の建築です。近世造営のものとしては、市内唯一の三間社流造で、規模は小さいながらも造りは本格的なものです。建地割図が現存し、造営年代や大工(向日市上植野町 小嶋久左衛門家)も明らかとなり、近世建築の技法を研究する上で貴重なものです。

角宮神社は、江戸時代には乙訓社・乙訓大明神とも称された、井ノ内地区の産土神です。延喜式内社乙訓坐火雷神社に比定する説もあります。覆屋内に流造の角宮神社本殿と、春日造の春日神社本殿とが並んで立つ、類例の少ない形式で、高い技術に裏付けられた堅実な造りとなっています。ともに、嘉永4年(1851)の造営で、大工(向日市上植野町 小嶋久左衛門家)が判明しており、建地割図も現存しています。舞殿形式の拝殿は、昭和17年(1942)に長岡天満宮拝殿を移築したもので、それまでのものは現在、境内東に西面する絵馬堂となっています。



野神神社 本殿

未指定文化財に、神社建築は10件確認されていますが、その多くが近代以降に建て替えられました。比較的古いものとして、勝龍寺境内の東に接する鎮守社で、弘化2年(1845)の造営と伝えられる春日神社の本殿や、現在神足神社の境内に移されている、江戸時代中期の造営とみられる野神神社の本殿などがあります。

### ③住宅建築

住宅建築に指定文化財はなく、登録文化財に国登録の石田家住宅(神足)主屋1件、佐藤家住宅主屋など9件、中野家住宅主屋など3件、河合家住宅主屋など5件、田村家住宅離れなど3件、石田家住宅(井ノ内)主屋など3件の計24件があります。

石田家住宅(神足)主屋は、旧西国街道に東面して建つ、切妻造・棧瓦葺、つし二階建ての町家です。北東南の3面に棧瓦葺の庇を廻し、内部は南側に通り庭を、北側に2列6室を配しています。江戸時代、岡本清兵衛



家が薬屋・紙屋・堺屋といった屋号で和紙などを商いました。明治期以降、山城銀行や医院、日本研磨社員寮などに利用されたといえます。戦後になって石田家が購入して茶葉を販売しましたが、平成 14 年(2002)長岡京市が取得し、平成 19 年(2007)「神足ふれあい町家」として整備されました。

中野家住宅は、旧西国街道に北面して建つ、切妻造・棧瓦葺、つし二階建ての町家です。西側に寄棟造の下屋が付属します。敷地には、切妻造・棧瓦葺、土蔵造二階建ての土蔵や、昭和 26 年(1951)増改築の数寄屋大工北村伝兵衛による茶室「皎庵」が配されています。平成 26 年(2014)長岡京市に寄贈され、令和元年(2019)から飲食店として活用されています。



中野家住宅 主屋

田村家住宅は、丹波街道沿いに位置し、離れ・井戸屋形・茶室「任無亭」が建ち並びます。離れは入母屋造・棧瓦葺、木造二階建てで大正 14 年(1925)に医院として建てられたものです。東面と南面は上下階とも同じ意匠のガラス窓で、統一感のある外観を見せ、2階座敷の造作も丁寧で開放的な和風建築となっています。また、井戸屋形は寄棟造・棧瓦葺で明治前期、茶室は宝形造・茅葺で江戸時代末期の建物とされています。



田村家住宅 離れ(旧鈴木医院)

未指定文化財に、岡本家住宅や工藤家住宅など、19 件の住宅建築を抽出しています。そのうち、建築年代が江戸時代に遡るものが7件、明治以降のものが 10 件、不明・その他は2件となっています。しかし、これらは住宅開発が進行したとはいえ、一部地区では旧姿をとどめる伝統的な住宅建築が点在していた、昭和末期の市史編さんにかかる調査で確認されたもので、現在は建て替えられてしまったものもあります。岡本家住宅主屋は、米屋を屋号とする商家を兼ねた建物です。切妻造・棧瓦葺で、土間には唐臼場が設けられていました。間口の広い敷地形状、付属屋の構成など農家的な特徴を備える一方、表構えや間取りなどに町家的な傾向もみられます。主屋・衣装蔵・納屋は、19 世紀中頃の建物と考えられています。工藤家住宅は、表通りに面して表門を構え、敷地の中ほどに主屋を配しています。表門の左脇には土塀・上便所・衣装蔵、右脇には小部屋・焙炉小屋が続き、焙炉小屋の背後にはかつて米蔵がありました。主屋は、三つの屋根が連なった独特の外観で、19 世紀中頃の建物とされています。つし二階は柱・軒裏ともに塗り込め、虫籠窓を開き、内部は製茶の作業場に使ったといえます。

本市域に所在した伝統的な住宅建築は、主屋の構造によって、いくつかに分類されます。一つは摂丹型といわれ、妻入で縦半分を土間とし、土間に沿って表からザシキ・ガイドコ口・ハヤを一行に並べた間取りを基本としています。規模が大きいものは、居室をもう一行増やして二行六間取りとしたり、表の側面に座敷を直角に突出させて、L字型の角屋造にされました。



石田家住宅(井ノ内)主屋

もう一つは、四間取り型で平入、床上表側にザシキ・クチノマ、裏側にハヤ・ガイドコ口を田の字形に配しています。また、町家は摂丹型と同様に縦半分を土間とし、土間に沿って居室を並べますが、通りに面して立地すること、表側をミセノマに、奥側を座敷にする点で異なります。摂丹型は摂津から丹波南西部・山城中部に分布し、四間取り型は河内・大和・伊賀から山城南部で多く見られます。本市域はこれらの境界付近に位置し、一部に大型のものや町家が確認されますが、摂丹型と四間取り型とが大半を占めています。

#### ④石造物

石造物の指定文化財には、市指定の長法寺の三重石塔と宝篋印塔の2件があります。三重石塔は、長法寺開基と伝わる千観上人の供養塔といわれ、一部に欠損が見られるものの、鎌倉時代前期の古風な様式をよく残しています。花崗岩製で、初重軸部の四方を舟形光背に彫りくぼめ、その内部に四方仏坐像が半肉に彫られています。宝篋印塔は、三重石塔と並んで長法寺前庭に立ちますが、かつて山の墓地から移されたものといえます。花崗岩製で塔身に月輪を線刻し、その内に金剛界四仏の種子を葉研彫りしますが年紀はなく、南北朝時代前期ころのものと推測されています。



長法寺の三重石塔・宝篋印塔

未指定文化財に、神社の石灯籠や石鳥居、狛犬、寺院・墓地の石塔や石仏、及び道標など、176件の石造物が確認されています。代表的な石仏に、浄土谷の大日如来坐像が挙げられます。群像として、本来一具のものではありませんが、神足・古市共同墓地の石仏群や楊谷寺参道の弥勒谷十三仏が注目されます。石灯籠では、角宮神社のものが明暦2年(1656)の刻銘があり、本市域では最も古いものです。石鳥居には春日神社で元禄13年(1700)、赤根天神社で宝永7年(1757)の刻銘が確認され、古いものです。また、特徴的なものに、楊谷寺の参道に点在する町(丁)石が挙げられます。寺社の参道脇に置かれ、目安として参拝者を導いた町石ですが、楊谷寺参道では錐頭角柱だけでなく、石仏を町石に用いた町石地蔵も確認されます。これらの多くは像容が似通っており、江戸時代後期のほぼ同一時期の作と考えられます。楊谷寺境内や門前には、各地の講組織や信者から寄進された石灯籠などが多く残っています。



浄土谷の大日如来坐像

#### ⑤その他の建造物

未指定文化財に、その他の建造物として長岡禅塾や錦水亭など10件を抽出しています。

長岡禅塾は、東畑謙三の設計で、昭和13年(1938)に建てられた禅の修養道場です。建物群は、木造・棧瓦葺・眞壁で統一され、玄関棟は入母屋造、炊事場は切妻造、茶室及び書院は寄棟造となっています。研究室は、和洋折衷の独特の内装で、格子枠のある上げ下げ障子窓、舟底天井を備える洋室となっています。

錦水亭は、タケノコ料理の料亭で、明治・大正期の数寄屋建築の建物が、八条ヶ池の池上や池岸に散在しています。池座敷は、幕末ないしは明治初年の建築と考えられており、池上の6棟は池中に立つ柱上に土台を廻して乗っています。本館は、北陸の大工による昭和元年(1926)の建築で、京普請とは異なる意匠の造りとなっています。



錦水亭 池座敷

七反田橋梁及び老ヶ辻橋梁は、向日町一大阪間で初めて開業した鉄道、省線(現在のJR東海道本線)に設けられた煉瓦造のアーチ橋で、イギリス人の技師ブランデルの設計により、明治9年(1876)に竣工しました。平成29年(2017)度に「大阪京都間鉄道煉瓦拱梁群」の構成要素として、土木学会選奨土木遺産に選ばれたものです。七反田橋梁は、その構造から神足六連橋とも呼ばれ、現在の府道伏見・柳谷線に架かっています。小畑川の氾濫に備えた避溢橋で、高く築堤した線路で出水を堰き止めないよう設けられたと考えられ、橋脚西側には水切りが見られます。老ヶ辻橋梁は、緩やかに弧を描くアーチが3連続し、老ヶ辻三連橋とも呼ばれ、犬川に架かっています。開通当時の鉄道は単線でしたが、橋そのものは複線規格で造られ、複々線となって北側にコンクリート造の橋が継ぎ足されました。



儀仗(議定)池・放生池とマンポは、今里地区西方の灌漑のために造られました。儀仗(議定)池はもとは今谷池、から池とも呼ばれ、文化2年(1805)に築造が決定し、文政年間(1818～29)に完成しました。放生池は、今谷池の水不足を補うため、光明寺裏山に嘉永2年(1849)より造られ、マンポを通じて谷水を取り入れました。マンポは、マンポともいったトンネル(暗渠)で、ふろそ谷の西の尾根を幅約1.5m・高さ約1.5m、延長約100mにわたって掘り抜いたものです。慶応4年(1868)大雨によって今谷池の堤が切れ、下流に被害が出ました。「議定池」は、この事故の和解と再発防止のため、粟生村と今里村で池の名を改めたものです。マンポは、「A.一次産業」「1.農業」に分類される、京都府近代化遺産調査の対象物件となっています。



放生池

馬ノ池は、いつごろ造られたものかよくわかっていませんが、池の名称に関わる江戸時代の由緒書が調子家文書に残されています。ここでは、『古今著聞集』にある下毛野武正が、山崎で落馬した故事によるものとされています。一方、調子地区の小倉神社御旅所にある明治16年(1883)の記念碑には、小倉神社(大山崎町円明寺)の祭礼で稚児を乗せる馬を洗ったことが由来となったと記されています。現在は、京都縦貫自動車道の整備にもなって暗渠となり、近くに馬ノ池に因んだ、調子馬ノ池公園が開設されています。江戸時代前期、永井直清の命によって、友岡・神足・勝竜寺の共有池として築造したとされるナンマンダ池をはじめ、小畑川左岸や風呂川との合流点の周辺、坂川沿いの小さなため池は、住宅開発や保育所・小学校など公共施設の整備によって、多くが埋め立てられ、その姿を消しました。

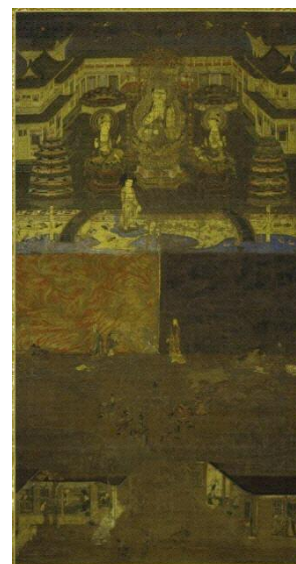
## (2)有形文化財(美術工芸品)

### ①絵画

絵画の指定文化財として、国指定には光明寺が所有する、絹本着色二河白道図(東京国立博物館勧告)と絹本着色四十九体化仏阿弥陀来迎図(奈良国立博物館寄託)、個人が所有する紙本着色法然上人絵伝(弘願本)(京都国立博物館寄託)の計3件があります。府指定には、楊谷寺が所有する、絹本着色紅玻璃阿弥陀像と絹本着色阿弥陀如来像の計2件があります。市指定には、光明寺が所有する、絹本着色地藏菩薩像(鎌倉時代)、絹本着色仏涅槃図、絹本着色地藏菩薩像(室町時代)、絹本着色羅漢図、絹本着色楊柳観音像、紙本着色光明寺縁起絵巻、光明寺旧大書院・釈迦堂障壁画と、楊谷寺が所有する絹本着色阿弥陀三尊来迎図の計8件があり、合計13件を数えます。

また、登録文化財には、府暫定に市指定と重複していないものとして、光明寺が所有する絹本着色阿弥陀聖衆来迎図(121.4×85.0 cm)、絹本着色阿弥陀聖衆来迎図(125.2×103.3 cm)、絹本着色十六羅漢像(その一～その十六の16件)、絹本着色十一尊図の計19件があります。なお、府暫定で市指定と重複しているものは61件を数えます。市指定と重複する府暫定の件数を除いた、絵画の指定文化財及び登録文化財は合計32件で、このうち光明寺所有が28件、楊谷寺所有は3件、個人所有は1件と、光明寺の絵画が大半を占めています。

光明寺の絹本着色二河白道図は、中国初唐期の浄土教思想家善導の經典注釈書で説かれた、二河白道の比喩に由来する仏画です。鎌倉時代中期を代表する作品で、いくつか伝来したこの種の絵画のうち、現存最古の優品です。画面下段に此岸の現世を、上段に彼岸の極楽浄土を描き、その中間に水河と火河および白道を配しています。

絹本着色二河白道図  
(光明寺)

個人蔵の紙本着色法然上人絵伝(弘願本)は、南北朝時代の作品で、浄土宗の開祖法然の生涯を描いた絵巻です。法然上人絵伝は、嘉禎3年(1237)の「法然上人伝法絵」を初例とし、浄土宗の発展とともに、絵巻や掛幅など系統を異にするさまざまな作品が数多くつくられました。本作品は、巻末にある「釈弘願本」の署名から弘願本と呼ばれ、3巻からなりますが、もとは4巻かそれ以上であったと考えられています。

光明寺の旧大書院・釈迦堂障壁画は、もとは宝永6年(1709)造営の内裏常御殿の襖絵で、春日野行幸図・大井川逍遙三艘図・四季真山水図・龍田図・巖島図、38枚・55面を数えます。狩野派の代表的な画家の手によるもので、宝暦13年公家大原重度が朝廷から拝領し、光明寺に寄進したことがわかっています。

未指定文化財には、釈迦関係、密教・浄土教関係、観音・地藏・羅漢などの仏教絵画をはじめ、近世・近代絵画、神社に奉納された絵馬など、83件の絵画が確認されています。聖徳寺が所有する紙本着色虚空蔵菩薩図は、戦国時代の作品で、近年修理にかかる調査で確認された裏打紙への注記から、天文20年(1551)海住山寺(木津川市)で制作されたこと、虚空蔵求聞持法の祈祷に用いられたこと、海住山寺の子院を転々とした後、明治22年(1889)までには聖徳寺にもたらされていたことがわかりました。

以上のように、本市域に伝来した絵画、とりわけ仏教絵画は光明寺を中心として、浄土教信仰のなかで生み出された作品が根幹となっています。それを取り巻くようなかたちで、鎌倉時代以降作品が多くなり、江戸時代中期の各寺院の再興のなかで、数量的な多さに加え、さまざまな時代の多種多様な仏画が伝わることになりました。



絹本着色 四十九体化仏  
阿弥陀来迎図(光明寺)

## ②彫刻

彫刻の指定文化財として、国指定には乙訓寺が所有する木造毘沙門天立像、光明寺が所有する木造千手観音立像(京都国立博物館寄託)、勝龍寺が所有する木造十一面観音立像(京都国立博物館寄託)の3件があります。府指定には、乗願寺が所有する木造阿弥陀如来坐像、楊谷寺が所有する木造千手観音立像、観音寺(神足)が所有する木造十一面観音坐像、寂照院が所有する木造四天王立像、勝龍寺が所有する木造菩薩立像の5件があります。市指定には、勝龍寺が所有する木造十一面観音立像・木造二天王立像(持国天)・木造二天王立像(多聞天)、乙訓寺が所有する木造十一面観音立像、寂照院が所有する木造金剛力士立像の5件があります。

また、登録文化財には府暫定が10件あり、そのうち6件は市指定と重複しますが、市指定と重複しない4件には、光明寺が所有する木造釈迦如来立像、寂照院が所有する木造千手観音坐像、乙訓寺が所有する木造狛犬(阿形及び吽形)があります。市指定と重複する府暫定の件数を除いた、彫刻の指定文化財及び登録文化財は合計17件を数えます。

国指定の木造毘沙門天立像は、平安時代後期の作品で、像高101.7cm・檜材寄木造・彫眼。忿怒の表現や姿勢も穏やかで、いかにも平安後期の藤原貴族好み、全体に調和のとれた作風です。補彩はほぼなく、造像当初の彩色や截金による、各種の文様を残しています。乙訓寺で最も古い仏像であり、かつての保存修理の報告には、弘治2年(1556)と貞享3年(1686)の修理銘も確認できます。

国指定の木造千手観音立像は、平安時代の作品で、像高161.8cm・檜材一木造・彫眼、白毫は水晶嵌入。顔の表情には「晦淡」と形容される、平安時代前期の仏像に特徴的な表現がみられますが、全体に穏やかなものになってきており、制作時期は10世紀前半と考えられています。いずれにしても光明寺で最も古い仏像であり、その開基をはるかに遡るものと考えられますが、その経緯についてはよくわかりません。

国指定の木造十一面観音立像は、鎌倉時代の作品で、像高は36.2cm、矧ぎ付けの頭上面を除いて、ほぼ全容を桜の一材から彫成しています。頭髮・眉・瞳・白毫・唇に彩色するほかは木肌のまま残した、勝龍寺の



本尊です。面長の面相や写実的な目鼻立ち、ボリュームをおさえた自然なプロポーションながら、平安時代初期に盛んであった檀像様の流れをくむ、鎌倉時代の貴重な作例です。

府指定の木造千手観音立像は、楊谷寺の本尊で、柳谷観音として信仰を集めています。像高 169.8cm・檜材寄木造・彫眼、布張りの上に漆箔仕上げ。頭上に11面と阿弥陀化仏、42臂で通形の千手観音立像ですが、背面左右に後補の板を矧ぎ付け、無数の掌を張り付けて千手を表現しています。等身を超える堂々とした作風で、平安時代末期から鎌倉時代初期の代表作とされます。また、保存修理の際に、像内から承元4年(1210)の修造勸進にかかる結縁願文などの古文書が発見され、当時すでに「柳谷千手観音」としてこの地に安座していたこと、近郷の人々からの募縁によって修理された様子が明らかになりました。

府指定の木造阿弥陀如来坐像は、乗願寺の本尊で、「浄土谷の大仏」と呼ばれる大像です。平安時代末期の作品で、像高 272.5cm・檜材寄木造・彫眼、漆箔仕上げ、丈六の阿弥陀如来坐像です。「仏の本様」と仰がれた定朝様にのっとった大作で、そのなかでも洗練された作風の像です。

市指定の木造金剛力士立像は、南北朝時代の作品で、像高(阿形)241.3cm・(吽形)239.5cm、寄木造、玉眼を嵌入し、寂照院の仁王門に安置されています。昭和40年(1965)年、保存修理の際に像内から勸進奉加帳などの古文書が発見され、本像が多くの人の結縁によって、康永3年(1344)に造立された経緯が明らかになりました。

府暫定の木造狛犬は、鎌倉時代の作品で、乙訓寺の宝物庫で展示されています。13世紀後半、穏健な和様の様式が完成されたころの制作で、貴重な作例といえます。阿行・吽形の両像の台座(後補)裏に、明応2年(1493)の修理銘が残されています。

未指定文化財には、99件の彫刻が確認されています。これらのうち、江戸時代のものが58件と最も多いが、平安時代の9件や鎌倉時代の5件など、古い時代のもも含まれています。地藏院が所有する、木造阿弥陀如来立像は平安時代前期、慈光院が所有する、木造増長天立像・木造不動明王立像はいずれも平安時代後期の作品とされます。木造阿弥陀如来立像は、鎌倉時代以降の作例しか知られていない逆手来迎印で、もとは薬師如来として制作されたとみられています。神秘的で重量感のある仏像で、本市域最古類の彫刻です。木造増長天立像・木造不動明王立像とともに、その制作年代と分布から、海印寺と関わる可能性が指摘されています。また、光林寺が所有する木造阿弥陀如来立像にも、像内納入品が確認され、建保6年(1218)や貞応2年(1223)の年紀が見られ、制作年代や造立の経過がわかっています。写実的な様式から判断した制作年代とほぼ一致し、鎌倉時代の作例として大変重要なものです。



木造十一面観音立像(勝龍寺)



木造千手観音立像(楊谷寺)

### ③工芸品

工芸品に、指定文化財及び登録文化財はありません。未指定文化財には、136件の工芸品が確認されています。これらは、主に梵鐘・半鐘・鶯口・伏鋌などの梵音具や幡・華鬘などの荘厳具、そのほか香炉・燭台・花瓶といった金工品で、そのほとんどが寺院で使用されています。おおよそ江戸時代以降の作品で、多くは京都の鋳物師や仏具師の手によるものです。大型の梵鐘については、第2次世界大戦時に供出を余儀なくされ、全て戦後になって再鋳されたものです。また、特徴的なものとして、楊谷寺が所有する、皇室からの下賜品及び各地の講組織や信者から寄進された什物の一群が挙げられます。その他、



長岡天満宮の各社殿を荘厳した、<sup>つりとうろう</sup>吊灯笼などが数多く伝来しています。

#### ④書跡・典籍

書跡・典籍に指定文化財はなく、登録文化財に府暫定の<sup>ごかしわぼらてんのうしんかんさんしゅうわ か かいし</sup>後柏原天皇宸翰三首和歌懐紙の1件があります。これは、楊谷寺が所有する戦国時代の天皇、後柏原天皇の和歌で、自筆によるものです。未指定文化財に、書跡・典籍は抽出されていませんが、未調査のため詳細は不明であり、他の美術工芸品に区分されたものや文書群のなかに、これに類するものが散見されています。今後、補充調査が必要です。

#### ⑤古文書

古文書の指定文化財として、府指定には個人が所有する<sup>ちやうしけもんじよ</sup>調子家文書、本市が所有する寂照院金剛力士像造立結縁交名(紙背御成敗式目)の2件があります。市指定には、本市が所有する古市村・神足村絵図、乙訓寺が所有する古市村・神足村<sup>じつちういんりやう</sup>美相院領絵図、及び古市村・神足村<sup>うつし</sup>美相院領絵図写、個人が所有する山城国乙訓郡神足村<sup>たかつかさまごりやうぶん</sup>微細絵図、個人が所有する<sup>いのうちむら</sup>鷹司様御領分乙訓郡井内村之図、今里自治会が所有する今里区有文書の6件があり、合計8件を数えます。

また、登録文化財には府暫定として、長岡天満宮文書・楊谷寺文書・楊谷寺棟札類・樋口家文書・乙訓寺文書・石田<sup>せいた</sup>瀨兵衛家文書・佐藤<sup>さとう</sup>久左衛門家文書・能勢<sup>のせしやう</sup>四郎右衛門家文書・石田<sup>いしだ</sup>市左衛門家文書の9件があります。

調子家文書は、調子家に伝来した中世から近代にかけての古文書群です。調子家は、本姓を下毛野氏<sup>しもつげの</sup>といい、平安時代後期に院や摂関家の身辺警護にあたった下級官人の家柄に<sup>さかのぼ</sup>遡ります。西岡の土豪として活動し、中世文書も多く伝えています。江戸時代には、幕府から調子村 70 石を与えられ、在村の領主であった一方、代々近衛家の隨身を務めました。隨身という下級官人の古文書が伝来している類例はなく、その歴史を知る上でも貴重なものです。



調子家文書  
出典：長岡京市史 資料編2

寂照院金剛力士像造立結縁交名は、寂照院に安置される木造金剛力士立像のうち、<sup>うんぎやう</sup>吽形像内に納入、文政9年(1826)の修理時に取り出されたと考えられ、近年まで地元の旧家の所有でした。御成敗式目の写本の紙背に、<sup>こうえい</sup>康永3年(1344)の造立に結縁した、約 700 人の名前が当時の村を単位に書き上げられています。式目 51 条のうち、第 18 条以下を欠失しているため、本来記されていた人数はさらに多かったと考えられます。年代の明らかな式目の写本としては、康永2年の奥書がある平林本に次ぐ古いものですが、中世村落や仏像造立の勧進のあり方も窺い知ることができる、貴重な資料といえます。



寂照院金剛力士像造立結縁交名  
(紙背御成敗式目)

今里区有文書は、4,941 点からなり、<sup>うつし</sup>写類を除くと、慶長 10 年(1605)京都所司代板倉勝重の<sup>あけなげしやめんじやう</sup>上竹赦免状が最も古く、寛永年間(1624~43)以降、昭和 30 年代中頃までの今里村と今里区の文書が連綿と伝わったものです。

未指定文化財には、123 件の古文書が確認されています。古文書は、その伝来場所によって村役場関係施設、村や区の伝統を引き継ぐ自治会、宮座・寺座・講・町の<sup>とうや</sup>当屋、個人宅、明治期に創立した小学校、旧農業協同組合及び寺社にわたることができ、個人宅には、証書類など私的な文書も伝わりますが、村運営に参加して、村や区の自治に関する公的な文書が混在するものもよく見られます。いずれにしても、地域の動向や人々の暮らしを具体的に知ることができる、かけがえのない資料といえます。また、本市が近年購入したものに、元龜3年(1572)のものとみられる、勝龍寺城を居城とした細川藤孝の書状があります。

## ⑥考古資料

考古資料の指定文化財として、府指定には恵解山古墳出土品の1件と、市指定には井筒、四仙騎獣八稜鏡、長岡京邸宅跡出土柱等、銅製錘、「蘇民将来」呪符木簡、縮銭、井ノ内稻荷塚古墳出土品の7件があり、合計8件を数えます。

また、登録文化財には府暫定として、鉄製品(恵解山古墳出土)、重層ガラス玉(宇津久志1号墳出土)、漆紗冠(長岡京跡出土)、土偶(雲宮遺跡出土)、銅剣(神足遺跡出土)、土笛(谷山遺跡出土)、陶棺(北平尾1号墳出土)、漆器鉢(長岡京跡出土)、漆器合子(長岡京跡出土)、祭祀具(西山田遺跡出土)、須恵器絵画線刻土器(井ノ内遺跡出土)、旧石器(南栗ヶ塚遺跡出土)の12件があります。なお、府暫定には、本市に所在する今里車塚古墳から出土した木製埴輪が登録されているが、京都府が所有・保管しているため、本市に所在する登録文化財には計上していません。

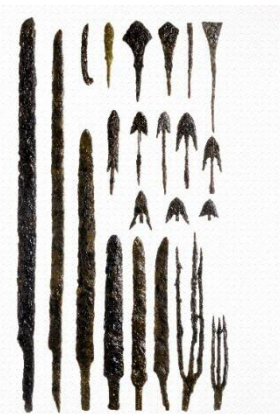
恵解山古墳出土品は、乙訓地方最大の前方後円墳である恵解山古墳から出土した、鉄製の武器類のほか玉類や埴輪からなります。鉄製武器は、前方部墳頂に造られた埋納施設に副葬されたもので、保有量は大王墓に匹敵するものです。

井筒は、直径0.6mの丸太を削り抜いたもので、長岡第九小学校建設時に発見されました。長岡京跡右京六条一坊三町から出土し、深さ2.94mの掘方内に据えられ、高さ1.84mの丸太の上方には、板材で四角く枠が組まれていました。長岡京でも官衙施設や上級貴族の邸宅に付属するような、最高級の井戸といえます。

四仙騎獣八稜鏡は、長岡京跡左京七条二坊七町から出土しました。建物の解体にともなって柱穴に埋納されたと考えられ、東大寺正倉院に納められている銅鏡と同じ鑄型が用いられています。模様が鮮明であることから、正倉院のものより先に製造されたとみられています。

「蘇民将来」呪符木簡は、長岡京跡右京六条条間南小路北側側溝から出土した、表裏に「蘇民将来之子孫者」と墨書された木札です。上部に小さな穴が開けられており、お守りとして身に付けていたと考えられています。「蘇民将来」は、『備後国風土記』逸文の説話に由来する、疫病除けの神の名です。厄除けの民間信仰として現代でも見られ、代表的なものに祇園祭山鉾の棕が挙げられますが、これは最も古い例として知られています。

未指定文化財には、101件の考古資料が確認されていますが、件数は代表的なものに限って抽出したものであり、今後補充調査が必要です。



恵解山古墳出土品(鉄製武器)



「蘇民将来」呪符木簡(表裏)

## ⑦歴史資料

歴史資料に指定文化財はなく、登録文化財に府暫定の長岡天満宮が所有する算額(寛政二年十二月今堀直方奉納)、寂照院が所有する曳覆曼荼羅版木の2件があります。

算額(寛政二年十二月今堀直方奉納)は、前近代の日本独自の数学、和算の問題を額にしたものを、絵馬として長岡天満宮に奉納したものです。絵馬として奉納することで、その研究の成果を発表する意味がありました。数学史の資料としても貴重なものです。京都の中根流を学ぶ12歳の少年が、寛政2年(1790)に奉納したもので、3面の額に9題の代数・幾何の問題が示されています。



曳覆曼荼羅版木は、曳覆曼荼羅を製作するための版木で、寂照院に伝来したものです。曳覆曼荼羅は、葬送の際、死者の身体に曳きあるいは覆って成仏を果たさせるためのものです。版刻は板の両面にあり、1面には五輪塔形が彫られ、もう1面には上半に胎蔵界中台八葉院形、下半に幡形と刻銘があります。幡形の右方には、版木の制作主体・年代を示すと思われる「西山粟生観音寺」や「応永14年(1407)9月10日」などの陰刻があります。



算額(寛政二年十二月今堀直方奉納)

出典：長岡京市の寺社

未指定文化財には、19件の歴史資料が抽出されていますが、歴史資料は歴史的な事象及び人物に関する資料が分類されるため、他の種別に区分されたものも散見されます。今後、補充調査が必要です。現在確認されているものに、本市が所有する神足社俳句奉納扁額、長岡公園増築寄付金芳名録があります。神足社俳句奉納扁額は光林寺に伝わったもので、光林寺や神足神社などで催された、句会で詠まれた秀句を額にし、天保10年(1839)に奉納されたものである。長岡公園増築寄付金芳名録は、菅原道真千年御神忌に合わせた、明治34年(1901)の長岡天満宮周辺一帯の整備計画にかかる寄付に関するもので、整備計画図も収録されています。その他、楊谷寺や門前の茶屋「玉屋」には、江戸時代後期から近代にかけて、各地の講組織や信者から寄進された多数の扁額が残されています。長岡天満宮にも、かつて拝殿や絵馬堂に掲げられた絵馬・扁額が数多く伝来しています。

### (3)無形文化財

無形文化財に、指定文化財及び登録文化財はありません。未指定文化財には無形文化財として、竹細工、蠟型鑄造、製陶の3件を抽出しています。

竹細工は、長岡京市文化財調査報告書第40冊『京タケノコと鍛冶文化』(長岡京市教育委員会、2000年)にかかる調査時、乙訓地方でただ1人となっていた、神足地区の竹細工師による製作が確認されています。京都へ供給する商品作物の価値を損なわないよう、野菜ごとに採取・運搬・輸送に適した専用の竹籠が発達しました。神足地区の竹細工師は、注文に応じて、多種多様な竹籠を作っていました。加えて、竹材の産地でもあった本市域には、農間余業での兼業もあって、竹籠生産に従事する竹細工師は多くいました。減少したという戦後においても、西国街道沿いで7・8軒、奥海印寺で5軒、長法寺で3軒が製作していたといえます。細工には、一般にそれに向かないとされる、孟宗竹を主に用いました。

蠟型鑄造は、『伝統の手仕事 京都府諸職関係民俗文化財調査報告書』(京都府教育委員会、1994年)にかかる調査時、神足地区の仏具師による製作が確認されています。神足地区の仏具師は、京都市南区鳥羽の仏具鑄造所で従業し、1980年代に転入してきたといえます。蠟型鑄造は、蜜蠟や木蠟、パラピンなど蠟の特性を活かした鑄造の技法で、香炉・燭台・花瓶などを製作しました。

製陶は、『長岡京百景』(長岡京市、1993年)にかかる調査時、今里地区の陶磁器製造業者3軒による製作が確認されています。これは昭和6年(1931)以降、東山五条・泉涌寺付近の製陶業者が、組合をつくって移住し、陶器町を形成して始めたものです。同14年(1939)には製陶業者10軒・職人154人を数え、翌15年に当時の今里区から新しい部落会として独立しています。

## (4) 民俗文化財

### ① 有形民俗文化財

有形民俗文化財の指定文化財として、市指定に金蓮寺の太鼓の1件があります。登録文化財はありません。金蓮寺の太鼓は、村人に報恩講などの法要を知らせるための「呼び太鼓」で、胴内には寛文2年(1662)以降の修理銘が確認されています。なかでも、享徳3年(1713)・安永7年(1778)の革の張り替えは、「大部の太鼓」として知られる「橋村」姓の太鼓師によるものです。

また、未指定文化財には有形民俗文化財として、乙訓のタケノコ栽培用具の1件が確認されています。かつて下海印寺地区で操業していた、加茂家が製作したもので、タケノコ掘りで使う特殊な掘り鍬(ホリ)や土入れに用いる唐鍬(ブチキリ)、竹切りに用いる竹切り鎌などからなります。加茂家は、明治期中頃に鍛冶業をはじめており、昭和50年代には橋本家を加えて、本市域には2軒の鍛冶屋があり、タケノコ関係の用具や鍬などの農具を生産・修理していました。優れた技術により、乙訓地方以外からの需要も多くありました。平成に入って加茂家・橋本家が廃業した後、かつて鍛冶屋をしていた長法寺の上野家が鉄工所の傍らで鍛冶業を再開し、乙訓地方で唯一の鍛冶屋として操業していました。

### ② 無形民俗文化財

無形民俗文化財に、指定文化財及び登録文化財はありません。未指定文化財には76件の無形民俗文化財が確認されており、その内訳は風俗慣習52件、民俗芸能7件、食文化17件となっています。

風俗慣習で代表的なものに、ムラの寺院で行われた宮座による行事、オコナイが挙げられます。オコナイは近畿を中心に分布する、正月から春にかけて行われる豊作祈願の祭りで、本市域では馬場や久貝、浄土谷などで見られます。京都周辺では仏教の修正会と結びつき、寺院の行事として行われる例が多く、久貝のオコナイも1月8日に西光寺で行われています。久貝(勝竜寺地区の一部)では、小倉神社(大山崎町円明寺)を祀る宮座、オザの座衆のうち年寄衆が集まり、牛王宝印を版木で刷って、20cm程度に切った柳の枝に巻き付けてゴオサンを作りました。その後、薬師如来の前で僧侶が『神名帳』を読み上げ、ランジョウ(乱声)の掛け声で拍子木を叩きます。『神名帳』の読み上げが終わると行事は終了し、ゴオサンは座衆に配られました。こうした行事は、今里・井ノ内でも見られ、ヤシャゴと呼ばれています。今里では、座組織の名称も同じヤシャゴ(夜叉講)によって、2月11日に乙訓寺で行われています。また、オセンド(お千度)と呼ばれる、田植えや稲刈りの前後に、五穀豊穡を祈って、神社へ参る行事が各地区にあります。そのほか、下海印寺・奥海印寺の村境付近で行われたサイマツリ(境祭り)や、村境の数ヶ所に榊の枝を刺してまわる下海印寺のサカキサシ(榊さし)といった境界に関わる行事、長法寺のビシャ(備射)や走田神社の弓講などの弓射行事、伊勢講や行者講、大師講など、講組織による行事などが伝わっています。また、最近のものとして、勝竜寺城公園の開園を記念し、平成4年(1992)市民提案によってはじめられた長岡京ガラシャ祭も挙げられています。民俗芸能では、各地区の盆踊りや大神楽、六斎念仏などを抽出しています。食文化として、浄土谷のいとこ汁や特産物のタケノコ、乙訓ナス、ナバナの蕾を食用にした花菜などを使った料理が確認されています。いとこ汁は、浄土谷の盆行事で、8月13日の夜にオショウライサン(お精霊さん)へ供えたもので、小豆・カボチャ・ナスが入った味噌汁です。『ふるさと乙訓の味』(乙訓地域生活研究グループ連絡協議会、1998年)でレシピが紹介され、その時「いとこ汁」と命名されたといわれています。

## (5) 記念物

### ① 遺跡(史跡)

遺跡の指定文化財として、国指定には乙訓古墳群の1件、市指定には走田9号墳石室、開田城跡土塁、乙訓寺窯跡2号窯、勝龍寺城土塁・空堀跡の4件があり、合計5件を数えます。また、登録文化財には府暫定として、楊谷寺境内の1件があります。

乙訓古墳群は、乙訓地方に分布する古墳時代(3～7世紀)の首長墳で、13基が指定されています。本市域には、恵解山古墳・今里大塚古墳・長法寺南原古墳・井ノ内車塚古墳・井ノ内稲荷塚古墳の5基が所在しています。一つの地域で、継続して首長墳が築造された事例は国内でも稀なものです。これらの古墳の動向は、畿内中枢部(大和政権)の大王陵の動向と軌を一にしており、古墳時代における政治的動向の縮図と評価されています。

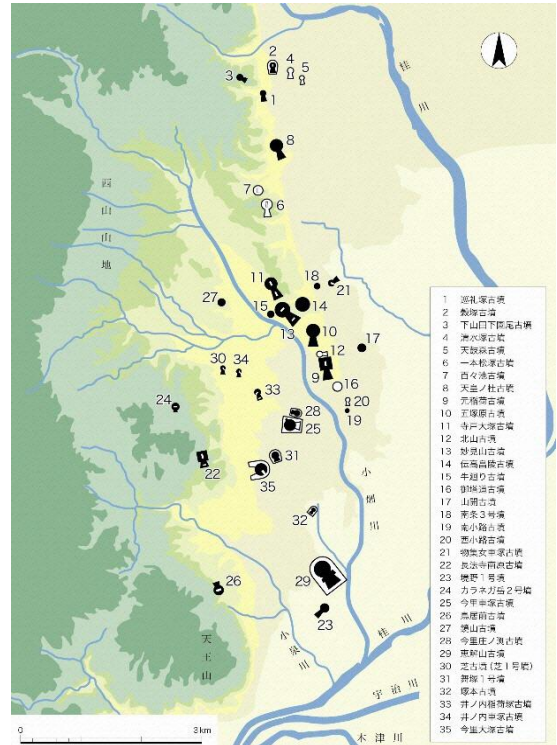
走田9号墳石室は、古墳時代後期の直径12mの円墳で、横穴式石室には組合せ式家形石棺が納められ、長岡京時代の土器が供えられた状態で見つかっています。石棺は兵庫県で産出される竜山石製で、大井石などの石材は持ち去られており、都づくり転用されたとみられています。

開田城跡土塁は、15世紀後半から16世紀前半に活躍した西岡の土豪、中小路氏の居館に築かれた土塁です。開田城は一辺約70mの方形で、周囲に幅約6.5m・高さ2mの土塁と幅約8m・深さ約1mの堀が確認されました。現在も、土塁の一部が保存・復元されています。

乙訓寺窯跡2号窯は、乙訓寺に使用された瓦を焼いた窯跡です。現在の乙訓寺境内北東に2基の瓦窯が発見され、長岡第三小学校グラウンド東側の住宅地に2号窯が保存されています。正確な成立年代は不明ですが、飛鳥時代の乙訓寺創建後に補修用の瓦を焼いたと考えられています。

勝龍寺城土塁・空堀跡は、元龜2年(1571)細川藤孝の勝龍寺城改修によって築造されたと考えられる、勝龍寺城の北側を守る外郭線の一部です。現存する土塁・空堀跡は、東西に約50m、堀の底部からの比高約6mが確認されています。南北方向の土塁と連結する複雑な構造や、土橋を架けた横天掛かりの虎口などが残っています。平成26年(2014)度に史跡公園として保存整備されました。

未指定文化財には、129件の遺跡が確認されていますが、件数は代表的なものに限って抽出したものです。開田古墳群や長法寺七ツ塚古墳群など、古墳時代で41件を数えます。そのほか平安時代が9件、奈良時代及び長岡京時代でそれぞれ6件、特定の時代に限定できない、長期にわたる遺跡を30件確認しています。開田古墳群は、長岡京市役所の北東域を中心に分布する古墳群で、開田古墳群東羅支群を含めて、25基前後の古墳と数基の土壇墓が見つかっています。周囲に巡らせた溝の土を盛り上げた、簡単なものと考えられますが、13号墳のように埴輪を樹立していたものもあります。長法寺七ツ塚古墳群は、7基の古墳で構成される古墳群です。中央の帆立貝式古墳を挟んで、東西に3基ずつの方墳が配置されており、古くから七ツ塚と呼ばれました。長岡京跡については、本市域において、大路や小路といった道路・側溝など長岡京造営に関わる遺跡、貴族の邸宅跡はじめ「市」に関連した工房や貯蔵施設などが見つかっています。本市域を大きく占める長岡京跡が未指定となっており、課題といえます。



乙訓地方の主な古墳



## ②名勝地(名勝)

名勝地の指定文化財として、府指定に楊谷寺庭園の1件があります。登録文化財はありません。

楊谷寺庭園は本堂の北西、書院の北方縁先に位置し、南北約15m・東西約25mの地割を占めています。庭園が描かれた年未詳の指図とそこに描き込まれた周辺堂舎の建築年代から、文久年間(1861~63)までには修造され、明治期中頃の上書院の建築に合わせて、現在見られる園池に改修されたと考えられています。書院からの視点を中心とした座視鑑賞式池庭で、西方の山腹に築いた急峻な滝石組から山水を流し落とし、亀島様式の中島を配した池を経て、本堂裏手の細い水路へと導いています。急峻な山腹に築いた枯滝石組を中心に、十三仏を象徴した立石を各所に据えており、池中の飛石から中島、石橋さらに対岸へと続く小道によって、景観に奥行きを持たせる手法は、類型化した江戸時代後期の庭園のなかでも際立った個性を示しています。



楊谷寺 庭園

未指定文化財に、名勝地として自然的なものに西山、西山縁辺の丘陵地、飛賀山、野山、平尾山、柳谷・浄土谷、走田神社の森と高位段丘、光明寺の森、小泉川の氾濫平野の9件を、人工的なものに長岡天満宮八条ヶ池、長岡天満宮小池、八条ヶ池の桜並木、長岡公園の梅園、乙訓寺の牡丹、高橋淳夫邸庭園の6件を抽出しています。

西山は、京都盆地の西を南北に走る山並みで、愛宕山・嵐山を含み天王山へ至ります。本市域の西には、標高300m以上の山頂小起伏面が連なっています。山麓付近は急斜面が縁どるため開発が難しく、緑が多く残りました。西山をはじめ、京都盆地を取り巻く山々は、丹波層群と呼ばれる地層によって構成されています。西山の麓付近には、標高120m以下の丘陵が断続して分布しています。丘陵地は、大阪層群からなり、タケノコの栽培に適した地質で、山林に代わって竹林が広がったとみられています。丘陵上は、古墳群や祭祀遺跡の分布地でもあり、竹林の開墾や進入路の工事に際して、遺構や遺物が発見されています。そのほか、飛賀山や野山など前近代から入会地などに利用されてきた山や西山山間の小盆地である柳谷・浄土谷、走田神社が立地する高位段丘、小泉川の氾濫で形成された低地などを抽出しています。

長岡天満宮八条ヶ池は、長岡天満宮の前面にあり、およそ長方形で南北約450m・東西約70mを測ります。「八条ヶ池」の初見は明治42年(1909)の地図で、江戸時代は「大池」と呼称されました。開田財産区の所有で、明治期の由緒書によると、寛永15年(1638)の築造といえます。境内一帯及び開田村のほぼ全域を所領とした、八条宮家によって、長岡天満宮や開田御茶屋の前庭として、また灌漑用ため池として整備され、社観を高めるとともに領内の水田を潤しました。同じころ、周辺の山ノ池・小池なども造られました。その後、現在に至るまで、石垣・石段の造成や参道となった中堤の拡幅、植栽の追加・変更など、長岡天満宮とともにたびたび整備されてい



長岡天満宮 八条ヶ池

ます。中央の参道で2分され、その堰堤に、キリシマツツジが密生しています。東側は高さ3mほどの堰堤を築き、外側に沿って走る府道大山崎大枝線ができるまでは、堤の上が丹波街道として使われました。堤上の道は、現在春の風景として桜の並木が親しまれていますが、『都名所図会』の注記から、江戸時代後期には桜・モミジの並木道であったようです。南側部分の西岸には、料亭錦水亭が営まれ、6棟のベンガラ塗りの建物が池に臨んで建てられています。錦水亭は、明治14年(1881)創業とされますが、版木に元治元年(1864)の年紀のある「長岡天満宮御境内之図」には、放生池端に「茶屋」が描かれ、明治32年(1899)の「長岡天満宮之景」には池中に茶屋らしい建物が5棟確認でき、現状に近い様子が見取れます。また、水上橋は近年設けられたもので、八条ヶ池一帯の景観を大きく変化させた、平成3年(1991)度の市町村シンボルづくり事業・同5~10年(1993~98)度のため池等整備事業のなかで新築されたものです。八条ヶ池の

来歴は、現在の景観が各時代の環境整備の積み重ねによって形成されたことをよく示しています。

長岡公園の梅園は、昭和49年(1974)に供用を開始し、同55年(1980)に完成の都市公園内に整備されたものです。大正11年(1922)、長岡天満宮の丘上には長岡運動場が設けられました。当時、乙訓郡で最も規模が大きい、約10,000㎡・1万人が収容可能な運動場で、郡内青年団員等の労働奉仕と町村の補助によって新設されたものです。長岡公園は、長岡運動場などを含む約24,000㎡を長岡天満宮から借用し、その周囲15,000㎡を買収、寄付を受けて拡張整備したもので、公園東側には200本からなる梅林が植樹され、梅園が設けられました。

乙訓寺の牡丹は、約30種・2,000株からなるもので、4月中旬から下旬に見ごろを迎えます。かつて、乙訓寺は本堂が松林で囲まれ、境内周辺には竹藪が茂るうっそうとした景観でしたが、境内に牡丹が植栽され、現在では牡丹の名所としても知られています。

高橋淳夫邸庭園は、山際の高台に位置する同家主屋の西側、奥の座敷に面した庭園です。地形を活かして、山の斜面に石組を置き、その下には園池がつけられました。園池は南北約15m・東西約3mで、底は漆喰打ちになっています。主屋の建築年代と植栽の経年から、江戸時代後期の造営と考えられています。枯滝石組と園路を折り重ねるように築き、小ぶりながらも数の多さで迫力を出した石組や山水を池中の井筒まで引いた工夫は、創意に富んだものです。江戸時代の民家でも、こうした優れた庭園がつけられたことを示す事例として、貴重なものです。

### ③動物・植物・地質鉱物(天然記念物)

動物・植物・地質鉱物の指定文化財として、市指定に光明寺の柏檜、長岡天満宮のキリシマツツジ、浄土谷のヤマモモ(楊梅)、乙訓寺のモチノキの4件があります。また、登録文化財には府登録として、寂照院のモウソウチク林の1件があります。

光明寺の柏檜は、ヒノキ科の常緑針葉樹で、高さ約15m・目通りの幹周3.8m、樹齢400~500年とされます。境内の円光大師(法然)火葬跡前に植わっていることから、享保19年(1734)ころの「光明寺焼失絵図」などに描かれた、火葬跡に献樹された一対のうち、向かって左側のものとみられています。

長岡天満宮のキリシマツツジは、常緑低木の園芸品種で、高さ2.5~3m、大きく枝分かれしており、樹齢100~150年と推定されています。八条ヶ池の中央を東西に通る、中堤の参道の両脇に、延長約60mにわたって野生に近い品種、88株が植わっています。幕末の指図の描写から、このころに植栽されたとされ、明治期中頃には「長岡天神の霧島」として、花の見ごろが報じられるようになっています。八条ヶ池の整備にともなって、たびたび追加されており、平成3年(1991)度にも1,000株が植えられました。

浄土谷のヤマモモ(楊梅)は、枝分かれする常緑高木で、浄土谷東方の山地斜面に生育する、70~80株のうち1本です。高さ約16m・目通りの幹周3.5m、樹齢は500~600年と推定されており、一群のなかで最も大きいものです。ヤマモモは雌雄異株で、前年に出た葉の脇に4月ごろ花が咲き、7月には果実が直径約2cm・暗紅紫色に熟し、食用となります。樹皮は、褐色の染料に用いられ、乾燥させたものを楊梅皮といって漢方薬にするなど、用途の広い栽培樹種です。浄土谷のものは、江戸時代には特産として知られており、毎年朝廷や仙洞御所などに献上され、その代わりに夫役や雑税が免除されていました。

乙訓寺のモチノキは、常緑高木のクロガネモチで、高さ約9m・目通りの幹周2.9m、樹齢は400~500年と推定されています。京都府内でも屈指の巨大なものでしたが、昭和9年(1934)の室戸台風で幹が折れ、近年枯れ枝が目立ち、雨水が入って腐食と空洞化が進んでいました。近年、保全対策を講じたことで以前の樹勢が戻り、乙訓寺のシンボルとして地域の人々に親しまれています。



浄土谷のヤマモモ(楊梅)

寂照院のモウソウチク林は、境内東部に残されたもので、面積400㎡の登録地域の林内に、竹稈直径



15cm を超えるモウソウチクが 160 本ほど生育しています。乙訓地方と竹との関わりは古く、平安時代中期の『延喜式』に箸竹を貢進するところとして、「山城国乙訓園」が見えます。室町時代には竹材の産地として、また竹商人の存在が知られ、江戸時代には竹が年貢として上納されました。江戸時代後期には、モウソウチクのタケノコ栽培が盛んとなり、京都や大阪の市場向けに販売されました。



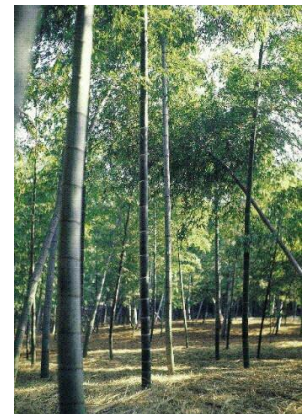
寂照院のモウソウチク林

未指定文化財に動物・植物・地質鉱物として、奥海印寺のカキ化石、浄土谷の三疊紀放射虫化石、光風台住宅地産出の動・植物化石、ゲンジボタルの4件が確認されています。奥海印寺のカキ化石は、奥ノ院の丘陵地で実施された、発掘調査によって発見されたものです。カキが生息していた当時は、水深2m 程度の浅瀬であったと考えられ、地形変動を経て、現在のような丘陵地になったと推定されています。浄土谷の三疊紀放射虫化石は、浄土谷の西方で、三疊紀後期(約 2.3~2.2 億年前)の丹波層群の泥岩から見つかりました。丹波層群は、固結した泥岩・砂岩・チャート・緑色岩などからなる地層で、泥岩やチャートに微化石を含むものがあります。光風台住宅地産出の動・植物化石は、光風台の開発工事中に出現した、大阪層群の露頭で見つかりました。大阪層群は軟らかい粘土・砂・礫からなり、京都盆地や大阪平野周辺に広く分布します。本市域の大阪層群は第四期前~中期に堆積したもので、貝類や植物の化石を含みます。ゲンジボタルは、水質汚染などにより一時見られなくなりましたが、昭和 59 年(1984)に「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」が結成され、ホタルの保護・育成を目指した取組が行われ、近年は多くのホタルが見られるようになりました。

## (6) 文化的景観

文化的景観に選定されているものはありません。未選定の文化的景観として、タケノコ畑、梅が丘住宅地、泉が丘住宅地・高台住宅地の3件を抽出しています。

タケノコ畑は、特産物であるタケノコの栽培に関わる景観として、本市域に広く見られます。日当たりの良い丘陵や段丘が展開する乙訓地方の地形は、水はけの良い酸性土壌と相まって、タケノコの栽培に適する条件を備えていました。江戸時代後期にはタケノコが特産物となり、一時期衰退したものの、明治期中頃以降さらに盛んとなりました。手間をかける乙訓地方特有の栽培法、「京都式軟化栽培法」が確立し、次々とタケノコ畑が開墾され、地域特有の生活と生業とが一体となった文化的景観が形成されています。また、梅が丘住宅地は長岡天満宮の南側、泉が丘住宅地・高台住宅地は阪急西山天王山駅の北西側に位置する住宅地で、良好な住宅地景観が形成されています。本市域は、昭和 29 年(1954)の阪急電鉄による大規模住宅開発が開始されて以降、急速に都市化が進行しました。戦後、京都や大阪のベッドタウンとして、宅地化が活発に進められてきた、本市域のまちづくりの特徴をよく示しています。



タケノコ畑  
出典：京タケノコと鍛冶文化



## (7)その他

その他の指定文化財として、府決定の文化財環境保全地区に楊谷寺文化財環境保全地区の1件があります。楊谷寺文化財環境保全地区は、楊谷寺とその周辺約 11.4ha を区域としています。境内には、本堂をはじめとした建造物による壮観な伽藍<sup>がらん</sup>景観が形成されています。また、門前には、かつて参詣者のための旅館等が軒を並べていたころの面影が残されています。これらの景観と伽藍背後のスギ・ヒノキを主とした森林が一体となり、信仰の場となってきた貴重な歴史的景観が形成されました。また、文化財環境保全地区は、本堂などの文化財建造物の環境を保全するため、欠かせない区域にもなっています。

未指定文化財にその他として、伝承に弟国宮<sup>おとくにのみや</sup>、『伊勢物語』(八十四段)、「孟宗竹の由来」の3件を挙げています。弟国宮は、『日本書紀』によると、継体<sup>けいたい</sup>12年(518)に継体天皇が筒城宮(京田辺市)から遷したとされる宮です。その所在地として、長岡京市北部が有力視されていますが、具体的な位置などはわかっていません。数年後、磐余玉穗宮<sup>いわれのたまほのみや</sup>(奈良県桜井市)へと遷りますが、淀川水系の交通の要衝に宮を設け、着実に勢力を拡大し、それまでの政権の中心地であった、ヤマトへ向かったと考えられています。『伊勢物語』は、作者・成立年代は未詳ですが、在原業平<sup>ありわらのなりひら</sup>を思わせる男を主人公とする、平安時代中期の歌物語です。第八十四段には、長岡の地に住居を構えていた業平の母伊都内親王<sup>いとないしんのう</sup>が、平安京に仕官する業平へ宛てて詠んだ和歌が掲載されています。同じ歌が『古今和歌集』にも収録されていることから、王朝貴族の間では著名な歌であったと考えられています。「孟宗竹の由来」は、乙訓地方の伝承として、江戸時代前期に宇治黄檗山<sup>おうぼくさん</sup>の禅僧によって、モウソウチクが中国からもたらされ、寂照院に移植されたといえます。当時は観賞用でしたが、天保年間(1830~43)美味なものとして栽培が拡張され、普及したとされています。一方で、寂照院に建てられている石碑「孟宗竹発祥之地」には、鎌倉時代に道元<sup>どうげん</sup>が中国杭州から持ち帰ったという寺伝が記されています。